我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞

【国外由来の外来種】

※対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※ 被害の深刻度	対策優先度の要件※ 実効性・実行可能性	特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目 定着可能性 生物	定着可能性 導入	生態系被害 競合	生態系被害 交雑	生態系被害 改変	分布拡大・拡散 散布	分布拡大・拡散 繁殖	分布拡大・拡散 気候	分布拡大・拡散 永続	重要地域	特に問題となる被害 人体	特に問題となる被害 経済産業	逸出・拡散 利用	逸出・拡散 付着混入	原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
定着を予防する外来種（定着予防外来種）																																	
	侵入予防外来種																																
1	未定着	侵入予防外来種				イネ	ビーチグラス	*Ammophila arenaria*	海岸砂丘	IV	◎	○	(◎)	×	◎	◎	(◎)	○	(○)	○	-	-	-	-	ヨーロッパ海岸地域原産。北米東部、オーストラリア南部、ニュージーランド、南アフリカ、チリに導入。	—	1.2m、多年草	砂丘の砂留めに栽植される。	日本でも販売される可能性がある。海外では、砂丘の砂留めに栽植される。一部の地域では、家屋の屋根、籠、椅子の座布団などに利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、海水で分布拡大すること等から、特に日本の海岸等の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	有用
	その他の定着予防外来種																																
2	未定着	その他の定着予防外来種				カバノキ	ヨーロッパハンノキ（オウシュウクロハンノキ）	*Alnus glutinosa*	湿地	IV	◎	◎	(◎)	-	○	○	(◎)	○	(◎)	-	-	-	○	-	ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部原産。オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ、合衆国等に導入。	—	20m、落葉高木	湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。	青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽される。	海外で侵略的な外来種とされていることから、特に生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF
3	未定着	その他の定着予防外来種				クワ	フランスゴムノキ（コバノゴムビワ）	*Ficus rubiginosa*		IV	○	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	-	○	-	オーストラリア原産。ヨーロッパや北アメリカに導入。	—	30m、常緑高木	自然林、植林地、川岸、低木林、市街地。環境への適応の幅は広い。	日本で観賞用に販売されている。海外では。日陰樹等として広く植えられる。	海外で侵略的な外来種とされており、動物により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイチジク属のガジュマルは、小笠原で問題になっている。	⑩海外：ISSG	JF
4	未定着	その他の定着予防外来種				ベンケイソウ	クラッスラ・ヘルムシー	*Tillaea helmsii*	湿地	IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	◎	(○)	-	-	(◎)	○	-	オーストラリア、ニュージーランド原産。ヨーロッパ、合衆国、ロシアに導入。	—	0.2m、多年草	湿地や水辺を好んで生える。水槽内での栽培の難易度は普通。	日本でもアクアリウムで利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、水により断片が散布されること等から、自然水域に持ち込まない。	アズマツメクサと同じ仲間。ISSGでは*Crassula helmsii*。和名（通称名）は本学名による。*Tillaea*アズマツメクサ属の数種が日本で採集されている。	⑩海外：ISSG	水草Ⅰ、勝山委員
5	未定着	その他の定着予防外来種				カエデ	ノルウェーカエデ（ヨーロッパカエデ）	*Acer platanoides*		IV	◎	◎	(◎)	-	◎	◎	(◎)	◎	(◎)	-	-	-	○	-	ヨーロッパからカフカス地域の原産。北米の自然林に侵入し、侵略的。	—	28m、落葉高木	海岸、自然林、植林地、撹乱地、市街地に生育する。湿潤な温帯地域に生育する。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐除性や耐干性があり、病気への耐性があり、海岸にも生育する。	庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。	海外で侵略的な外来種とされており、風により種子が散布され、浅く張った根茎が在来種の生育を阻害し、葉から土壌微生物に影響を及ぼし、在来種の生育を阻害する毒素を放出する。北アメリカでは下層植生の衰退が報告されている。 冷温な地域において、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。 日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。 雌雄同株。	⑩海外：ISSG	有用、JF、日本造園学会
6	未定着	その他の定着予防外来種				カエデ	アメリカハナノキ（ベニカエデ）	*Acer rubrum*	ハナノキの生育地の周辺	I	○	◎	-	◎	-	◎	○	○	○	-	-	-	◎	-	米国北部、カナダ原産。	—	40m、落葉高木	沼沢地や川岸に生える。	庭木、公園樹、並木として利用される。	絶滅危惧種のハナノキの遺伝的撹乱を引き起こすことから、ハナノキの生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	絶滅危惧Ⅱ類（VU）のハナノキの遺伝的撹乱を引き起こしている。	⑪その他：勝木委員	樹木、日本生態学会第60回全国大会（2013）講演要旨
7	未定着	その他の定着予防外来種				グミ	ホソグミ（ロシアンオリーブ）	*Elaeagnus angustifolia*	湿地や河原	IV	○	◎	(◎)	-	◎	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	(◎)	○	-	ヨーロッパ南部から西アジア原産。合衆国で河川を中心に急速に増加。	—	9m、低木	農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地に生育する。実生には耐除性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本との競争に耐え、萌芽生長により広がる。	日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にする。	海外で侵略的な外来種とされており、窒素固定能力があるとともに、水や鳥、小型哺乳類により種子が散布される。自然水域や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。	⑩海外：ISSG	有用、Ylist
8	未定着	その他の定着予防外来種			（旧要注意）	ギョリュウ	タマリクス属雑種（ギョリュウ）	*Tamarix* × *hybrid*	湿地や河原	IV	○	◎	(◎)	×	○	◎	(◎)	○	(◎)	-	-	○	○	○	ギョリュウ属は南ヨーロッパ、北アフリカ、アジアに分布。	—	7m、落葉低木	農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河岸域、撹乱地、市街地、水路、湿地に生育する。	日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、水辺の生物や水利用への影響が大きいことから、自然の河岸等や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	*T. ramosissima*（Worst100で要注意外来生物）と*T. chinensis*ギョリュウを両親または片親とするすべての雑種。	①要注意、②W100：（IUCN）、⑩海外：（ISSG）、⑪その他：藤井委員	JF、J. F. Gaskin and B. A. Schaal. 2002. Hybrid Tamarix widespread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256－11259.園芸
9	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ヤルマ	ヤツデグワ	*Cecropia peltata*		IV	◎	○	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	熱帯アメリカ原産。	—	20m、常緑高木	森林の低地に多いが、撹乱地、溶岩層、森林のギャップ、植林地などに生育する。	沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥に運ばれる。	①要注意、②W100：IUCN、⑩海外：ISSG	ブラジル、外来生物、藤井委員
10	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				ヤルマ	ケクロピア・シュレベリアナ	*Cecropia schreberiana*		IV	◎	○	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ポリネシア等に導入。	—	20m、高木	日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、撹乱地に生育する。	日本では温室での栽培例がある。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	旧分類のイラクサ科。種子は果実食の鳥やコウモリに運ばれる。	⑩海外：ISSG	藤井委員
11	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				トベラ	シマトベラ（トウソヨゴ）	*Pittosporum undulatum*		IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	オーストラリア東部原産。台湾で野生化。	小笠原で野生化する。	12m、低木	関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、撹乱地、低木林に生育する。	日本でも栽培されている。海外では、防風のために植えられ、ゴルフクラブや薪炭に利用され、観賞用としても利用、ミツバチの蜜源にもなる。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。	⑩海外：ISSG	園芸事典
12	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				フトモモ	タチバナアデク（ピタンガ）	*Eugenia uniflora*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	○	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	ブラジル原産。熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカにも導入。	—	10m、常緑の低木または小高木	自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。	日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	有用、Ylist、JF

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
13	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				フトモモ	ムラサキフトモモ（ヨウミャクアデク、メシゲラック、ムレザキフトモモ）	*Syzygium cumini*		IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	インドからマレーシア原産。東南アジア、オーストラリア北部に分布。	—	30m、高木	自然林に生育する。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件で生育する。洪水や干ばつにも耐える。	各地で紫色の果実を食用にするために栽培される。インドネシアでは薬用。種なしの品種もある。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	有用、Ylist、JF
14	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ノボタン	アメリカクサノボタン	*Clidemia hirta*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	(◎)	○	○	熱帯アメリカ原産。太平洋諸島やインド洋に導入。	—	2m、低木	自然林、草原、水辺、撹乱地、低木林に生育する。	海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物によい。	海外で侵略的な外来種とされ、島、人、車などによって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい、挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。	①要注意、②W100：IUCN、③村中：C、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	園芸事典、藤井委員
15	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ（ブラッサイア、オクトパスツリー）	*Schefflera actinophylla*		IV	○	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	オーストラリア、ニューギニア原産。ハワイなど太平洋諸島で侵略的。	—	30m、高木	自然林、撹乱地、市街地に生育する。	観賞用に栽培される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	JF、IPSW
16	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ヤブコウジ	コウトウタチバナ（セイロンマンリョウ）	*Ardisia elliptica*		IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	アジア原産。合衆国、インド洋諸島、ハワイ諸島等に分布。	—	5m、常緑低木	熱帯の泥湿海岸地域の海浜や湿潤な森林等に生育する。	観賞用に利用される。日本でも流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		①要注意、②W100：IUCN、⑩海外：ISSG	Ylist、JF、外来生物、IPSW
17	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				ガガイモ	オオバナアサガオ（インドゴムカズラ）	*Cryptostegia grandiflora*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	マダガスカル原産とされるが原産地ははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。	—	2m、常緑のつる性木本	農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、撹乱地、低木林、水路、湿地、海浜に生育する。	観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱仕立てで庭木としている。刈りこめば低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取される。第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海浜地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生（取り播き）、取木、散布による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える（日本造園学会）。	⑩海外：ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会
18	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				ノウゼンカズラ	トラノツメ（ネコノツメ）	*Macfadyena unguis-cati*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。オーストラリア、合衆国南東部、アフリカ南部で侵略的。	—	20m、つる性の常緑多年草	自然林、植林、草原、撹乱地、市街地に生育する。若い時は耐陰性がある。	海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	*Macfadyena*=*Dolichandra*。案外に耐寒性があって、軽い霜では害をうけず、日本の中部以西の暖地ならばよく戸外で生育し、つるは長く伸びる。挿し木で簡単に発根し、よく生長する。	⑩海外：ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF
19	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ（ウリバローレルカズラ）	*Thunbergia grandiflora*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	(◎)	○	-	インド～東南アジア原産。オーストラリアやハワイで特に問題。	—	10m、つる性の常緑植物	自然林、植林地、撹乱地、川岸、海岸に生育する。日本では、関東南部、横浜などで近年、路地での越冬がみられる。	観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまう。海外では、薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、水により茎や根茎の断片が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	寒さで傷みやすいが、回復も早い。小笠原では近縁種の*T. laurifolia*が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。	⑩海外：ISSG	有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist
20	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				リュウゼツラン	アツバチトセラン（サンスベリア）	*Sansevieria trifasciata*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(○)	○	-	-	○	-	熱帯西アフリカ原産。ハワイで野生化。オーストラリアでは環境雑草、台湾で侵略的。	—	1m、多肉の多年草	海外では栽培された場所から逃げ出している。越冬には12～15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。	観葉鉢物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。	海外で侵略的な外来種とされ、近縁種が小笠原で繁茂していること、鳥や動物による分布拡大があること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のチトセラン*S. niloticaが*小笠原の父島、母島、弟島、姉島、姪島などに野生化。耐陰性がある。	⑩海外：ISSG	有用、園芸事典、JF、PIER、GCW
21	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				イネ	ダイサンチク（タイサンチク）	*Bambusa vulgaris*		IV	◎	◎	(◎)	-	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。	日本の暖地では露地でどうにか越冬できるが、遅く出た筍は先が枯れる。	15m、高木	自然林、植林地、川岸、撹乱地、水路に生育する。湿気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。	庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いたけのこは食用にされる。建築など各種の用途に用いられる。	海外で侵略的な外来種とされ、除去する際に根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のホウライチク*B. multiplex*　インドシナ原産説と九州、琉球野生説がある。	⑩海外：ISSG	有用、園芸事典、Ylist、JF、木本II
22	小笠原・南西諸島／未定着	その他の定着予防外来種				ヤシ	シマケンチャヤシ（ユスラヤシモドキ）	*Archontophoenix cunninghamiana*		IV	◎	◎	(◎)	×	-	◎	(◎)	○	(◎)	○	-	-	○	-	オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等で侵略的。	露地栽培の北限は九州南端で、栽培は可能である。	20m、高木	海岸、自然林、河岸、撹乱地、市街地に生育する。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。	優美な姿を観賞するために栽植される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。	海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、水や鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	有用、園芸事典、JF
総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）																																	
	緊急対策外来種																																
23	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①③	⑤	特定外来（一部）	アカウキクサ	外来アゾラ類	*Azolla* spp.	アカウキクサやオオアカウキクサの生育地周辺	Ⅰ、IV			◎	◎	○	◎	◎	◎	○	—	○	○	—	◎	世界各地に分布。	本州、四国、九州に分布する。現在各地で広がっているものの大半は、雑種アゾラと呼ばれてきたアイオオアカウキクサ*Azolla cristata* × *filiculoides*である。	3cm、浮遊植物	湖沼、水田、溝、水路など日当たりのよい浅い水域に生育する。	合鴨農法の中で、アイガモの飼料として各地に配布されたが、アゾラ・クリスタータについては特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	アゾラ・クリスタータは特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。アイオオアカウキクサ（雑種アゾラ）は交雑の可能性はなく、外来生物法の規制の対象ではないが、絶滅危惧種のアカウキクサやオオアカウキクサ等との競合の可能性があるため、こうした種類の生育地へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	⑤対策：H20と、⑦各県：兵庫で対象になっているのは特定外来生物のアゾラ・クリスタータ（アメリカオオアカウキクサ）*Azolla cristata*。⑦各県：愛知はアゾラ・クリスタータとオオアカウキクサ大和型（ニシノオオアカウキクサ）との人工雑種アイオオアカウキクサ*Azolla cristata* × *filiculoides*。⑦各県：千葉はこれら2種、ISSGは*A. pinnata*。	①特定外来、⑤対策：H20:<4、H23:4、⑥専門家：水生34、⑦各県：千葉・兵庫・愛知・愛媛、⑩海外：ISSG	雑管、角野(2013)、写真図鑑、角野
24	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①②③④	⑤	特定外来	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	*Alternanthera philoxeroides*	池沼や湿地	II、IV、V			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	◎	南アメリカ原産。熱帯アジア、オーストララシア、北アメリカに分布。	1989年に渡来し、関東～沖縄の一部に分布。	長さ1m以上、多年草	湖沼、河川、水路、水田に生育する。	本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。	—		①特定外来、③村中：B、⑤対策：H20:4、H23:6、⑥専門家：水生28、⑦各県：千葉・兵庫、⑧河川：1,1,5、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、IPSW、角野

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
25	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①③④	⑤	特定外来	ウリ	アレチウリ	*Sicyos angulatus*	河原の固有種の生育地	Ⅳ、Ⅴ			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	○	◎	－	◎	北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布。	1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道～九州に分布。	数m、つる性の一年草	林縁、荒地、道端、原野、樹園地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群落。日当たりの良い肥沃な環境を好む。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。	－	果実に刺がある。	①特定外来、②W100：日本、③村中：A、⑤対策：H20:51、H23:33、⑥専門家：草原47、⑦各県：青森・栃木・埼玉・千葉・京都・兵庫・愛知・広島、⑧河川：44,78,84	便覧、写真図鑑、外来生物、世雑Ⅰ
26	定着初期／限定分布	緊急対策外来種	①②③④	⑤	特定外来	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ	*Ludwigia grandiflora* (*L. grandiflora* ssp. *grandiflora*)	湖沼	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ			◎	◎	－	◎	◎	◎	○	◎	－	◎	－	○	南米及び北米南部原産。ヨーロッパや北米北部で野生化。	オオバナミズキンバイが、2007年に兵庫県のため池で確認。2009年の冬期に琵琶湖南湖への侵入が確認された。その後はすさまじい勢いで分布を拡大し、2012年末に南湖のほぼ全域まで分布を広げた。ウスゲオオバナミズキンバイssp. *hexapetala*は2009年に鹿児島で確認された。	0.8m、浮葉～抽水～湿性の多年草	沼沢、湿地、ため池、湖沼、水路、河川に生育する。コンクリートの護岸でも生育できる。	本種の可能性のある類似種が、観賞用水草として日本で流通している。水質浄化やビオトープ用の植物として利用されたと考えられる。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	ヨーロッパやアメリカで侵略的な外来種とされ、琵琶湖南湖では急速に分布を拡大している。河川や湖沼への水草の導入は、基本的に行うべきでない。	ナガエツルノゲイトウと同様あるいはそれ以上に除草困難である。近縁の絶滅危惧種のミズキンバイの遺伝的撹乱を引き起こすことも危惧される。	⑪その他：藤井委員	水草研究会誌89号、藤井委員、GCW、水草Ⅰ、角野
27	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①③	⑤	特定外来	アリノトウグサ	オオフサモ	*Myriophyllum aquaticum*	池沼や湿地	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	○	－	○	－	－	南アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、ハワイ諸島に分布。	大正年間に渡来。北海道～九州、琉球で分布。	1m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、河川、水路に群生する。	観賞用の水草として導入されたいたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	種子は作らない。	①特定外来、②W100：日本、③村中：A、⑤対策：H20:11、H23:15、⑥専門家：水生35、⑦各県：栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、⑧河川：23,29,46、⑩海外：ISSG	雑管、便覧、写真図鑑、IPSW、角野
28	定着初期／限定分布	緊急対策外来種	①③	⑤	特定外来	セリ	ブラジルチドメグサ	*Hydrocotyle ranunculoides*	池沼	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	○	－	○	－	－	南アメリカ原産。	1998年頃に野生化が確認。九州南部と岡山に分布。	長さ1m以上、浮葉～抽水性の多年草	湖沼、河川、水路に生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－		①特定外来、③村中：B、⑤対策：H20:<4、H23:4⑥専門家：水生19、⑦各県：兵庫・佐賀、⑧河川：0,0,1	便覧、写真図鑑、角野
29	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①③	⑤	特定外来	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	*Veronica anagallis-aquatica*	カワヂシャが生育する河原や湿地	Ⅰ、Ⅳ			◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	－	－	－	－	ヨーロッパ～アジア北部原産。南アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカに分布。	渡来年代不明。本州、四国、九州に分布。	1m、抽水性の多年草	湿地、河川、水田、水路に生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	絶滅危惧種のカワヂシャとの交雑が確認されている。	①特定外来、③村中：A、⑤対策：H20:<4、H23:6⑥専門家：交雑24、⑦各県：栃木・愛知・京都・兵庫・広島・佐賀、⑧河川：6,17,36	便覧、写真図鑑、外来生物、角野
30	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①③	⑤	特定外来	キク	オオキンケイギク	*Coreopsis lanceolata*	河原の固有種の生育地	Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	－	北アメリカ原産。世界各地で利用。	明治中期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.7m、多年草	河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。	園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	愛知県でも、カワラサイコやカワラハハコを圧迫している。	①特定外来、②W100：日本③村中：C、⑤対策：H20:22、H23:27、⑥専門家：河原42・草原40、⑦各県：千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、⑧河川：19,58,86	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物
31	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①②③	⑤	特定外来	キク	ミズヒマワリ	*Gymnocoronis spilanthoides*	池沼	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	－	－	中央～南アメリカ原産。アジア、オーストララシア、太平洋諸島、ヨーロッパに導入。	1995年渡来、関東～四国、九州に分布。	1m、抽水性の多年草	湖沼、河川、水路の水中や水際で繁茂する。	観賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	治水や水利用の障害になっている。	①特定外来、③村中：B、⑤対策：H20:8、H23:5、⑥専門家：水生26、⑦各県：栃木・埼玉・千葉、・愛知・兵庫・佐賀、⑧河川：0,0,2、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、角野
32	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①②③	⑤	特定外来	キク	オオハンゴンソウ	*Rudbeckia laciniata*	湿原や林床	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	－	－	北アメリカ原産。世界各地で利用。	園芸植物として明治中期に渡来。北海道～九州、琉球に分布。	3m、多年草	路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育する。国立公園の湿原や森林といった自然度の高い環境に繁茂する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	ハナガサギク（ヤエザキオオハンゴンソウ）（広島、H23:1）含む。国立公園等、各地の重要地域で駆除が行われている。	①特定外来、③村中：B、⑤対策：H20:18、H23:2、⑥専門家：草原40・高山20、⑦各県：北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、⑧河川：18,32,35	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物
33	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①④	⑤	特定外来	キク	ナルトサワギク	*Senecio madagascariensis*		Ⅳ、Ⅴ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	－	－	フフリカ（マダガスカル）原産。	1976年渡来。本州、四国、九州に分布。	0.7m、一～多年草	海辺の埋め立て地や空き地などに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	急性中毒は引き起こさないが、肝毒性や発がん性を有するピロリジジンアルカロイドが乳汁へ移行するという報告もあり、非意図的に人的被害をもたらす危険性もある。 コウベギクやカシュウボロギクの和名での報告がある。	①特定外来、⑤対策：H20:<4、H23:1、⑥専門家：草原18、⑦各県：千葉、・愛知・兵庫、⑧河川：0,0,5	便覧、帰化植物、写真図鑑、黒川委員、農研機構：http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/fireweed.html

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
											定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
34	定着初期／限定分布	緊急対策外来種	①②③	⑤	特定外来	イネ	スパルティナ属	*Spartina* spp.	干潟	II、IV			◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	(◎)	－	◎	北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15～16種類が知られる。	スパルティナ・アルテルニフロラ（ヒガタアシ）*S. alterniflora* が愛知県と熊本県で分布拡大中。	3m、汽水性の多年草	海岸近くの河口域、塩沼地、干潟に生育する。	海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が危惧されている。河川や干潟等の自然水域には、持ち込まない。	北アメリカ原産の*S. alterniflora*が導入されたイギリスで*S. maritima*と交雑して不稔雑種の*S. ×townsendii*を形成し、それが倍数化して*S. anglica*が生まれた。スパルティナ・アングリカは特定でIUCNワースト100, ISSGには*S. anglica*、*S. alterniflora*、*S. densiflora*が掲載。	①特定外来、②W100：（IUCN）、⑤対策：H23:1、⑥専門家：塩湿10⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	Neira, Carlos, Levin, L A and Grosholz, E D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid Spartina, with comparison to uninvaded habitats. Marine ecology progress Series 292:111-126.
35	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種	①②③	⑤	特定外来	サトイモ	ボタンウキクサ	*Pistia stratiotes*	暖地の池沼や湿地	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	－	－	南アフリカ原産。アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、ハワイ諸島に分布。	昭和初期に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	0.3m、浮遊性の多年草	池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。	本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。	－	在来の水生植物に深刻な影響を及ぼす。	①特定外来、②W100：日本、③村中：A、⑤対策：H20:6、H23:7、⑥専門家：水生36⑦各県：千葉・愛知・京都・兵庫・広島・滋賀・佐賀・宮崎、⑧河川：2,12,24、⑩海外：ISSG	外来生物、便覧、角野、IPSW
36	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種	①②③	⑤	旧要注意	キク	ツルヒヨドリ（ツルギク、ミカニア・ミクランサ）	*Mikania micrantha*		II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	(○)	－	－	熱帯アメリカ原産。熱帯アジア、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見。本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。	20m以上、つる性の多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。日陰地でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。	インドでは第二次大戦後に、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。	－	写真図鑑の引用文献の学名はいずれも*M. cordata*だが、*M. micrantha*として記述。日本に定着しているのは本種との植村氏の私信もあり。*M. scandens*との混同が多く、ともにツルギク、ツルヒヨドリの名で呼ばれる（写真図鑑）。	①要注意、②W100：IUCN、⑩海外：ISSG、⑪その他：横田委員	世雑Ⅰ、藤井委員、横田委員、写真図鑑、IPSW
37	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種	①②③	⑤	旧要注意	キク	アメリカハマグルマ（ミツバハマグルマ）	*Sphagneticola trilobata*	隆起珊瑚礁など海岸砂地や岩場、林縁	II、IV			◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	フロリダ南部～熱帯アメリカ原産。アフリカ南部、熱帯アジア、太平洋諸島に分布。	沖縄には1970年代初期に渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に分布。	0.2m、多年草	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育する。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で猛繁茂。畑地の雑草となっている。	法面等の被覆用やつり鉢に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁茂している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*Wedelia trilobata*。	①要注意、IUCN③村中：C、⑥専門家：砂浜5、⑦各県：小笠原・奄美、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物
重点対策外来種																																	
38	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			ハマミズナ	バクヤギク（エデュリス、莫邪菊）	*Carpobrotus edulis*	海岸砂浜	II、IV			◎	×	◎	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	南アフリカのケープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的。	愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。	1m、多肉の多年草	海岸や撹乱地にマット状に生育する。水はけが良い土壌と、日当たりが良い環境を好む。	浸食防止、観賞用、被覆植物として利用され食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。	海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大きく、動物により種子が散布されること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	ハギクソウやハマウツボへの影響が懸念。カルポブロツス属は丈夫で生長が速い。鉢植えではなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。	⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG	JF、園芸事典、IPSW
39	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		（旧要注意）	サボテン	ウチワサボテン属	*Opuntia* spp.	海岸砂浜や河原	II、IV			◎	×	○	◎	◎	○	◎	◎	○	－	○	－	アメリカ大陸の広範囲に250種が知られる。	長野県にとラウチワ（単刺団扇）*vulgaris*、沖縄県北大東島にセンニンサボテン*O. stricta*、香川県などに種小名不明のものがが分布。	数mの木になるものもある。	種類によっては耐寒性があり、暖地では野外で生育する。在来の海浜植物を圧迫。	海外では産業的に重要な種が多く、果実、若い茎節を食用の目的で栽培されるほか、家畜の飼料とした り、庭の植え込みに利用する。日本でも、単刺団扇*O. vulgaria*や赤烏帽子*O. rufida*のように漢字の園芸名がつけられて栽培されるものが多数ある。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布される。日本では、剪定した枝や不要になった株が野外に投棄されて逸出したと考えられる。海浜植物や人への悪影響が懸念されることから、生物多様性の保全上重要な、特に海浜や河川環境に侵入することのないよう、植物体や果実を放置しない等の適切な管理が必要である。	サボテン科の中で最大の属。種類が多く同定困難。 センニンサボテンが要注意でIUCNワースト100、*ISSGは*O. cochenillifera*、*O. ficus-indica*、*O. monacantha*。 愛知県では沿岸域における移入種として、ウチワサボテン属が条例の規制の対象となっている。	①要注意、②W100：（IUCN）、⑤対策：H20:<4、⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG	観葉、便覧、園芸事典、JF
40	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③		旧要注意	スイレン	ハゴロモモ（フサジュンサイ、カモンバ）	*Cabomba caroliniana*	ため池、湖沼	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	○	－	北アメリカ東南部原産。ヨーロッパやアジアで野生化。	1929年に導入、1950年に野生化が確認。本州、四国、九州に分布。	2m、沈水生の多年草	湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。水質がやや汚濁した環境にも生育する。	観賞用水草として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、断片の水散布により分布が拡大し、水生の希少種への影響も危惧されること等から、自然水域には持ち込まない。	愛知県では、ガガブタやヒシなどの在来水草を圧迫している。ハゴロモモ（ジュンサイ）科CABOMBACEAEに分類されるようになった。	①要注意、③村中：C、④FAO:8、⑥専門家：水生26、⑦各県：愛知・愛媛、⑧4,9,12、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、Ylist、角野
41	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			スイレン	園芸スイレン	*Nymphaea* cv.	ため池、湖沼	IV			◎	○	－	◎	◎	◎	◎	○	－	(◎)	◎	－	約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布。	明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄で栽培され、野生化。各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でない。	浮葉性の多年草	湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。	観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温室で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒツジグサと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含み、食用にされることもある。根茎は薬用にも利用される。	海外で様々な種類が侵略的な外来種とされており、日本でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、絶滅危惧種を含む水生生物へ大きな影響を及ぼすため、駆除が行われている。自然水域には、持ち込まない。	愛知県は在来種のヒツジグサを除くスイレン属。名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒツジグサ*N. odorata*が侵略的とされている（ISSG）。ヨーロッパで*N. alba*が、スリナムで*N. Amazonum*が、ローデシアで*N.caerulea*が、パキスタンで*N. lotus*が、インドで*N. sterlata*が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：水生31、⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG	有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、JF、http://www.bdnagoya.jp/introduction/activities/water_lily.html、角野
42	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			モウセンゴケ	ナガエモウセンゴケ（ナガエノモウセンゴケ、ドロセラ・インターメディア）等の外来モウセンゴケ類	*Drosera intermedia*、*Drosera* spp.	湿地	I、II、IV			◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	北アメリカ、ヨーロッパ原産。	岡山県等で問題になっている。	15cm、多年草	ミズゴケ類が育つような湿地に生育する。	観賞用に利用されている。	在来種の遺伝的な撹乱を引き起こし、貴重な生態系である湿地への影響も大きいことから、自然環境には、持ち込まない。	重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ*D rotundifolia*との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地生態系への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ属は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。	⑤対策：H20:<4、H23:3、⑥専門家：湿地21、⑦各県：千葉、（ナガエモウセンゴケ）・岡山・愛媛	便覧、写真図鑑、園芸事典

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
43	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③④		旧要注意	アブラナ	オランダガラシ（クレソン）	*Nasturtium officinale*	池沼や渓流	Ⅳ、Ⅴ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	◎	－	ヨーロッパ、中央アジア原産。南北アメリカ、オセアニアに分布。	1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。	0.6m、抽水～沈水性の多年草	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湖畔から山間の渓流の水辺から水中に群生する。日当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。	食用に広く利用される。薬用に利用されるほか、水質浄化を目的に導入されることがある。種子を薬用にする。	河川で分布を拡大するとともに、湧水のあるような清冽な水域にも生育するため、こうした環境に生育する希少種等と競合し、駆逐するおそれがある。農業被害も生じることから、こうした影響を及ぼす水域には持ち込まない。	農業用用排水路の水流を妨げる雑草等としても駆除される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。茎部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。群馬県では絶滅危惧種のカワヂシャと生育場所が重なることが確認された。	①要注意、③村中：B、④FAO:9、⑤対策：H23:1、⑥専門家：水生37、⑦各県：北海道・埼玉・愛知・愛媛・宮崎、⑧河川：40,75,86	世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、外来生物、園芸辞典
44	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①			マメ	ナガバアカシア	*Acacia longifolia*		Ⅳ			◎	×	◎	◎	(◎)	○	(◎)	○	－	－	○	－	オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで侵略的。	本州（山口）で逸出。南房総で越冬。	8m、常緑小高木	温帯性。暖地では野外で越冬する。窒素を固定する。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要とする。潮風に耐える。	観賞用や砂丘の安定化のために植栽される。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、動物や水により種子が散布されることで等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	本種には、いくつかの変種がある。	⑩海外：ISSG	便覧、有用、園芸事典、JF、熱帯花木
45	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	マメ	モリシマアカシア	*Acacia mearnsii*	蛇紋岩地や草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	◎	◎	○	◎	◎	－	－	◎	○	オーストラリア南東部タスマニア原産。ヨーロッパ等に分布。アフリカ南部で侵略的。	本州（愛知、大阪、兵庫、広島、山口）、四国（愛媛県）で逸出。	20m、常緑高木	草原、水辺、撹乱地、市街地、水路に生育する。乾燥した温帯地域から湿潤な熱帯地域まで生育する。愛知県田原市の笠山では、蛇紋岩地に侵入し草地植生が消滅。大阪でも越冬するがやや弱い。	観賞用に栽培される。日本の暖地で緑化樹、肥料樹、樹皮に含まれるタンニンの採取のために導入。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥やげっ歯類により種子が散布され、窒素固定により埴環境を改変し、アレロパシー作用もある。国内でも貴重な生態系の消失が報告されていること等から、こうした環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	従来、園芸的に*A. mollissima*という名前で栽培されてきたものは、本種であることが多い。	①要注意、②W100：IUCN、⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG	便覧、有用、園芸事典、熱帯花木、IPSW、JF
46	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①			マメ	メラノキシロンアカシア（ブラックウッドアカシア）	*Acacia melanoxylon*		Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、インド洋、太平洋、南アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクヌギやコナラなどを被覆してほぼ純林を形成している。	35m、常緑高木	農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河岸、撹乱す地、低木林、市街地、湿地、常緑のアカシアの中では比較的低温に耐えるので関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにかなり耐える。東京でも越冬。	岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムシの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。	海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布され、日本で既に侵略的になりつつあること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑩海外：ISSG	園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学科植物生態研究室（波田研）http://had0.big.ous.ac.jp/plantsdic/angiospermae/dicotyledonae/choripetalae/leguminosae/melanoxylon/melanoxylon.htm
47	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②④		旧要注意	マメ	イタチハギ（クロバナエンジュ）	*Amorpha fruticosa*	河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺	Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	4m、落葉低木	荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着し、生育する。	庭園樹、砂防用、生垣用に導入。蜜・花粉ともに多いことから、蜂が好んで訪花する。また、養蜂業においては蜜源として利用されている。緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	リンゴ炭そ病の発生源とされていることから、リンゴ栽培が行われている場所の周辺では、利用を避けることが望ましい。河川を中心に分布を拡大しており、河原の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来植物とされている。河川により種子が拡散される場所には、持ち込まない。	H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	①要注意、②W100：日本、③村中：B、④FAO:7、⑥専門家：河原19、⑦各県：青森・埼玉・京都・兵庫・広島・愛知・愛媛・佐賀、⑧河川：37,78,93、⑨三省：国都・国道	便覧、写真図鑑、農林水産省・林野庁、外来生物
48	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			マメ	シュッコンルピナス（ルピナス、タヨウハウチワマメ、ノボリフジ）	*Lupinus polyphyllus*	自然草原	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	○	◎	○	○	◎	－	－	○	－	北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	渡来年代不明、北海道で逸出した。	1.5m、多年草	草原、林縁、森林、農耕地、撹乱地、荒地に生育する。	園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。	海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	専門家の回答はルピナス。北海道ではシュッコンルピナスはA3、キバナルピナス*L. luteus*はD。志賀高原で対策が行われている。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：草原28、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、IPSW
49	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			ニガキ	ニワウルシ（シンジュ）	*Ailanthus altissima*	河川敷、二次林	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	－	○	○	－	中国の北～中部原産。ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアに分布。	1880年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	10～25m、落葉高木	路面間隙、舗道の割れ目、河川敷、荒地、土手、丘陵の林縁、耕作放棄地に生育する。日当たりの良いところを好む。	庭木、公園樹、街路樹として栽培。群馬県では、第二次世界大戦前までエリサンという輸入蚕の飼料として利用されていた。高温、乾燥、寒気、公害に強く、寒冷地や煙害の強い工場地帯での利用が多い。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で密林を形成して、分布を拡大するとともに、雑木林への侵入も危惧されている。自然環境には、持ち込まない。	根萌芽により密林状の個体群を形成し、水流阻害、洪水誘発を起こす危険性がある。雌雄異株。生長が速い。種子は風や水により散布される。横に伸びる根から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。	③村中：C、⑥専門家：雑木13、⑦各県：埼玉・広島・群馬県、⑧河川：37,68,70、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、服部
50	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③		旧要注意	アカバナ	アメリカミズユキノシタ（ルドウィジア・レペンス）	*Ludwigia repens*	池沼や湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	○	－	北アメリカ～メキシコ～西インド諸島原産。	1970年頃渡来。神奈川、京都府（深泥池）で野生化。	長さ0.5m、沈水～抽水～湿性の多年草	湖沼、ため池、休耕田、水路、湿地に生育する。	アクアリウム用の観賞植物として栽培。	ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が危惧されていること等から、自然環境には、持ち込まない。		①要注意、③村中：B、⑤対策：H20:<4、H23:1、⑥専門家：水生12、⑧河川：0,0,1	便覧、写真図鑑、GCW、角野
51	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	アカバナ	コマツヨイグサ	*Oenothera laciniata*	海岸砂浜	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	◎	◎	◎	○	◎	－	－	－	－	北アメリカ東部原産。温帯～亜熱帯に分布。	1910年に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.5m、一～多年草	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地に生育する。鳥取砂丘で問題になっている。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—		①要注意、③村中：B、⑥専門家：砂浜31、⑦各県：愛知、⑧河川：52,84,89、⑪その他：藤井委員	便覧、帰化植物、外来生物
52	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			セリ	ウチワゼニクサ（タテバチドメグサ）	*Hydrocotyle verticillata* var. *triradiata*	池沼や湿地	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	北アメリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカに分布。	1960年頃に渡来。千葉、神奈川、兵庫、琉球などに分布。	0.4m、抽水～湿性の多年草	湖沼、ため池、水路、水田、湿地などに生育する。	観賞用に栽培される。ビオトープに導入されている可能性がある。	日本では湿地への影響が懸念されており、水散布により分布が拡大する可能性が高いことから、自然水域には、持ち込まない。	1件はウチワゼニゴケとなっていた。USDAでは*H. prolifera*の別学名とされている。	⑤対策：H23:2、⑦各県：愛知	便覧、写真図鑑、帰化植物、USDA、角野

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害		分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
53	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②		旧要注意	モクセイ	トウネズミモチ	*Ligustrum lucidum*	暖地の河川敷、二次林、湿地	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	中国中南部原産。オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アメリカ合衆国南等で侵略的。	明治初年に渡来、関東～九州に分布。	10m、常緑小高木	農耕地、沿岸地域、自然林、河岸、撹乱地、湿地に生育する。乾燥した場所から湿った場所に生育する。日本では、近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大。里山二次林などに侵入。	大気汚染に強く、耐潮性、耐陰性があり、移植が容易で生長が早いので、街路樹や公園樹としてよく植栽される。 花が少なくなった梅雨前後に咲くことから、養蜂業においては初夏の有力な蜜源として利用されている。また、生産される蜂蜜も高品質である。 干した果実が漢方薬で利用される。 中国ではうろうそくの原料となるイボタロウムシ培養樹よして広く利用される。	海外で侵略的な外来種とされている。日本でも大量に熟す果実が鳥により散布されて河川等に広く逸出し、雑木林や極相林への侵入も危惧されている。防除対策が実施されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。 H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	①要注意、③村中：C、⑤対策：H20:<4、H23:1、⑥専門家：雑木34、極相21、⑦各県：愛知・兵庫・愛媛、⑧河川：5,30,46、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、農林水産省、JF、有用、園芸事典、橋本ら（2003、2005）
54	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	*Vinca major*	二次林林床、草原、海岸砂浜	IV			◎	×	○	○	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	南ヨーロッパ原産。アフリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	明治時代に渡来、北海道、本州九州、四国、琉球に分布。	2m、つる性の多年草	観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育する。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。	園芸植物として渡来。様々な園芸品種が観賞用に利用される。全国的なカバープランツとしての利用度も高い。	花が綺麗であることから、野生状態でも容認されることが多い。しかし海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布拡大傾向にあり、草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁茂するので、在来植物への影響は大きい。生物多様性の保全上重要な地域だけでなく林縁や草原に接する環境には、持ち込まない。	種子はあまりつくらない。	⑥専門家：草原27、⑦各県：愛媛、⑧河川：13,26,50、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、JF、IPSW
55	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			ヒルガオ	外来ノアサガオ類	*Ipomoea* spp.（*Pharbitis* spp.）	海岸や林縁	IV			◎	○	－	◎	◎	◎	○	○	－	（◎）	○	◎	アサガオ類は、熱帯アメリカや熱帯アジアに分布。ノアサガオはヨーロッパ南部、アフリカ南部、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	・アメリカアサガオ*I. hederacea*（*P. hederacea*）は江戸時代末期(1882年頃）渡来。現在のものは輸入穀物に混ざって入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。 ・マルバアメリカアサガオ*I. hederacea* var. *integriuscula*は北アメリカ原産、1971年以前に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。 ・マルバアサガオ*I. purpurea*(*P. purpurea*)は江戸時代に渡来、本州以南に分布。 ・ノアサガオ*I. indica*は紀伊半島以南に分布するが、園芸品種が各地で逸出（外来系統のノアサガオはオオバアメリカアサガオ*I. learii*として区別する見解がある）。	10m以上、つる性の一～多年草	・アメリカアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育する。土壌環境に対する適応性が大きく耐陰性もあり、海外では畑地雑草となっている。 ・マルバアサガオは畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、世界的な畑地雑草となっている。耐寒性が強いものが多く、各地で栽培されたものが逸出している。 ・ノアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、畑地雑草となっている。 ・オオバアメリカアサガオ）は海岸や人里近くの道端、林縁などに生える。	イリオモテアサガオ、オーシャンブルー"Ocesn Blue"、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオなどと呼ばれるノアサガオの外来系統の園芸品種が盛んに栽培され、逸出している。 1975年に作出されたアサガオとマルバアサガオの交雑品種のヨウジロアサガオ*Ipomoea nil* x *I. purpurea*など、様々な園芸品種が流通、利用されている。 垂直面緑化（グリーンカーテン）の有望種とされる。	つる植物なので他の植物を覆い尽くして生長し、種子で繁殖するもの、栄養繁殖するもの、強健で耐寒性があるもの等を含む。そのため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入させることのないよう、管理の放棄や苗の投棄を行わない配慮が必要である。	・アサガオ属*Pharbitis*は、ヒルガオ属*Ipomoea*に含める文献が多いので、ここではアサガオ類とした。 ・オオバアメリカアサガオはノアサガオの外来系統を区別したもの。宮崎はオオバアメリカアサガオ*I. learii*。 ・ソライロアサガオ*I. tricolor*をセイヨウアサガオまたはアメリカアサガオと呼ぶことがあるので混同しないよう注意が必要。 ・栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、葉柄近くから発根して根付く。	⑦各県：愛媛・宮崎、⑧河川：ｱﾒﾘｶｱｻｶﾞｵ12,29,26、ﾏﾙﾊﾞｱﾒﾘｶｱｻｶﾞｵ5,13,20、ﾏﾙﾊﾞｱｻｶﾞｵ13,24,24	世雑Ⅰ、便覧、写真図鑑、JF、園芸事典、帰化植物、IPSW
56	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②		旧要注意	クマツヅラ	シチヘンゲ（ランタナ）	*Lantana camara*	暖地の海岸	II、IV			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	（◎）	○	－	北アメリカ南部～熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	江戸時代末期（1865年）に園芸植物として渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。	3m、半つる性の低木	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。	コバノランタナ*L. montevidensis*との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が数多く作出されている。暖帯域では路地で、温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。 果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるので、温暖な重要地域では、こうした種類を用いる。	土壌中に窒素を蓄積する。自家受粉も受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。	①要注意、②W100：IUCN、③村中：C、④FAO：8、⑥専門家：海洋島28、⑦各県：愛知・愛媛・小笠原・奄美、⑩海外：ISSG	世雑Ⅰ、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF、IPSW
57	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			アワゴケ	イケノミズハコベ	*Callitriche stagnalis*	湧水河川、水路	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	○	ヨーロッパ原産。北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに分布。	1996年渡来、福島、栃木、群馬、千葉、神奈川、山梨に分布。ミズハコベを駆逐しながら急速に分布を拡大している可能性がある。	0,6m、沈水～浮葉性の多年草	水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東北部のクレソン栽培地で多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—	湿地性の在来植物に悪影響。在来種のミズハコベと誤認されている場合が多い。	⑤対策：H20:<4、⑦各県：栃木・群馬、⑧河川：0,0,1	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW、角野
58	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①			ナス	ダイオウナスビ	*Solanum mauritianum*	二次林	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	－	○	（○）	－	－	熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、オーストララシア、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	静岡県南伊豆町で、分布を拡大中。	10m、小高木	農耕地、沿岸、自然林、植林地、河岸、撹乱地、市街地に生育する。国内では、谷沿いのモウソウチク林に生育する。二次林内であるが、樹林内に広がり、種子繁殖している。	農業試験場で栽培されていた可能性がある。	—	全草が有毒だが、特に果実が人間にとって有毒。	⑩海外：ISSG、⑪その他：勝山委員	大西・勝山（2011）J. Jpn. Bot 86:253-255、勝山委員、IPSW
59	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③			フジウツギ	フサフジウツギ（ニシキフジウツギ、チチブフジウツギ、ブッドレア）	*Buddleja davidii*	河原	II、IV			◎	○	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	（○）	○	○	中国西部原産。合衆国西部に分布。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。	園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州で逸出。兵庫県六甲山では沢沿い、堰堤の堆積地、林縁、造成地などの明るく開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸台川河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アシ原やヤナギを駆逐している。	2m、半常緑低木	自然林、河岸、崩壊地、草原、撹乱地、市街地、水路、湿地に生育する。排水の良い向陽地を好み、寒さに強い。路面間隙雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面で優占群落を形成し、分布を拡大している。	多数の園芸品種があり、日本でブッドレアとして観賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用にされる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすくなる。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。	③村中：C、⑦各県：兵庫、⑧河川：0,6,6、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、IPSW、大窪・岡（2005）、伊藤ら（2001）、http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/sp/184/index.html
60	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			ゴマノハグサ	ハビコリハコベ（グロッソスティグマ）	*Glossostigma elatinoides*	池沼や湿地	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	オーストラリアの北部、ニュージーランド、アフリカの一部が原産。北アメリカに野生化。	2008年に愛知県豊川用水で確認。	1cm、沈水～湿性の多年草	水生の絶滅危惧種への影響が危惧される。	日本人が世界に広めたアクアリウムプランツである。	シラタマホシクサのような希少種が生育する貴重な生態系である湿地への影響が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。		⑦各県：愛知	写真図鑑、角野
61	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			タヌキモ	オオバナイトタヌキモ（ウトリクラリア・ギッバ）	*Utricularia gibba*	湿地	II、IV			◎	○	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	◎	北アメリカと中部アメリカ原産。東南アジア、オーストラリア、アフリカに分布。	1930年代にアメリカから観賞魚に随伴して侵入、食虫植物マニアによる栽培から逸出、水草類の随伴種としても侵入、兵庫県で野生化。	0.2m、浮遊性の一年草	愛知県では希少種のミカワタヌキモの生育地への持ち込みが危惧されている。	観賞用に市販、流通している。	海外で侵略的な外来種とされており、希少種のミカワタヌキモとの競合・駆逐等が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。	在来種のイトタヌキモssp. *cxoleta*の基本種で、種別しない見解もある。 食虫植物。	⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、JF、角野

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
62	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			タヌキモ	エフクレタヌキモ	*Utricularia inflata*	湿地	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－	北アメリカ東部原産。	1990年に静岡県磐田市で野生化したものは、その後消失した。それ以前から兵庫県、大阪府でも野生化が確認。	長さ1m、浮遊性の多年生	湖沼、ため池、湿地に生育する。	観賞用に利用されている。タヌキモ属は、種名が不明なものも含めて、近縁種が多数栽培されている。	希少種のタヌキモ類や、貴重な生態系である湿地への影響が大きいことから、自然環境には持ち込まない。	⑥専門家は外来ミミカキグサ類、⑪その他：環境省では、タヌキモ属は種名が不明なものも含めて近縁種が多数栽培されているため、属単位で指定することが適当とあるが、在来種のタヌキモ属との識別が困難なため、特に本種を選定した。自然に分布を拡大する可能性は低い（帰化植物）。タヌキモ属は、種子が風、水、鳥で散布される（園芸事典）。	⑥専門家：湿地8、⑪その他：環境省、角野委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、環境省、角野委員、角野
63	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③		旧要注意	キク	オオブタクサ（クワモドキ）	*Ambrosia trifida*	湿地や河原	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	－	○	○	－	◎	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	1952年渡来、北海道～九州、琉球に分布。	1～6m、一年草	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群生する。	花粉対策用にブタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。	－	埼玉ではヨシやスゲ類など湿性草原の植物を駆逐、愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念。飼料穀物や豆類に混入して侵入。	①要注意、②W100：日本、③村中：A、④FAO:8、⑤対策：H20:4、H23:5、⑥専門家：草原48、⑦各県：埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、⑧河川：41,79,86	世雑Ⅰ、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物
64	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	キク	セイタカアワダチソウ（セイタカアキノキリンソウ）	*Solidago altissima*	湿原・湿地	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	○	○	－	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	観賞用植物として明治時代（1897年頃）に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	2.5m、多年草	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって撹乱された環境が増えると繁茂する。	現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象になっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり。湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ*S. canadensis*と混同された。	①要注意、②W100：日本③村中：A、④ＦＡＯ８、⑤対策：H20:17、H23:11、⑥専門家：草原54、⑦各県：北海道・青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎・奄美、⑧河川：71,110,111	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸辞典、GCW
65	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	キク	オオアワダチソウ	*Solidago gigantea* var *leiophylla*	湿原・湿地	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	－	－	北アメリカ原産。	明治中期(1880年頃)渡来。北海道～九州に分布。	1.2m、多年草	原野、道端や、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。	園芸植物として渡来、現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。*Solidago gigantea* ssp. *serotina*。北海道では、知床国立公園、ウトナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。	①要注意、②W100：日本③村中：B、⑤対策：H20:<4、⑦各県：北海道・愛知、⑧河川：28,42,47	便覧、写真図鑑、帰化植物、Yiist
66	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	キク	外来性タンポポ種群	*Taraxacum officinale*、*T.* spp.	自然草原や高山	Ⅰ、II、IV			◎	◎	－	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	ヨーロッパ原産。世界中に分布。	セイヨウタンポポ*T. officinale*は1940年に北海道に渡来、北海道～九州、琉球、小笠原に分布。	0.4m、多年草	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。	セイヨウタンポポやカントウタンポポが流通している。野菜として利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を引き起こす可能性がある場所には、持ち込まない。		①要注意、②W100：日本③村中：A、④ＦＡＯ：6、⑤対策：H20:14、⑥専門家：草原45・高山23・交雑42、⑦各県：北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・滋賀・愛媛、⑧河川：66,105,115、⑩海外：ISSG	雑管、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典
67	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①③			オモダカ	ヒロハオモダカ（ジャイアントサジタリア）	*Sagittaria platyphylla*	河川や湿地	IV			(◎)	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	(◎)	○	◎	北アメリカ原産。太平洋諸島やヨーロッパに分布。	1998年大阪府牧方市で初めて採集。	1.5m、抽水性の多年草	河川、水路、湖沼、湿地に生育する。豊栄養な環境を好む。	海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカ*S. graminea*として、またはジャイアントサジタリアの名前で利用されている可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされており、近縁種のナガバオモダカは既に日本で侵略的となっている。種子が水で散布されること等から、自然水域には持ち込まない。	日本では当初はナガバオモダカ*S. graminea*と考えられていた。別学名*S. graminea* var. *platyphylla*水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させる。	⑩海外：ISSG	志賀隆。大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ植物班、水草研究会誌, Vol.93, pp.13 - 22(2010)、水草Ⅱ、角野
68	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	オモダカ	ナガバオモダカ（ジャイアントサジタリア）	*Sagittaria weatherbiana*	湿地や池沼	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	○	－	北アメリカ原産。世界各地で栽培。	1975年頃に渡来。千葉、神奈川、東京、京都、和歌山、岡山で野生化。	0.6m、抽水性の多年草	湖沼、ため池、水路、河川に生育する。天然記念物の京都の深泥池で繁茂する。	ジャイアント・サジッタリアの名でアクアリウムで栽培。	国の天然記念物の深泥池で繁茂するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐すること等から、自然水域には持ち込まない。	2010年に*S. graminea*の学名から変更された。雌雄異株で日本には雌株のみ。	①要注意、③村中：B、④FAO:9、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：水生19、⑦各県：愛知、⑧河川：0,1,1	便覧、写真図鑑、帰化植物、角野
69	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	トチカガミ	オオカナダモ（アナカリス）	*Egeria densa*	池沼	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	○	－	南アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ南部、アジア、オーストララシア、北アメリカ、ハワイ諸島に分布。	大正時代に渡来、本州～九州、琉球で野生化。京都の深泥池で繁茂。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。	観賞用に販売、利用される。魚の餌、植物生理の実験材料に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	①要注意、②W100：日本③村中：A④ＦＡＯ：9、⑤対策：H20:<4、H23:1、⑥専門家：水生41、⑦各県：埼玉・愛知・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎、⑧河川：30,60,70、⑩海外：ISSG	世雑Ⅲ、便覧、外来生物、JF、IPSW
70	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	トチカガミ	コカナダモ	*Elodea nuttallii*	池沼や渓流	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	○	◎	アメリカ北東部原産。ヨーロッパ、東アジアに分布。	昭和の初めに入り、本州、四国に分布。尾瀬沼などで繁茂する。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水～停滞水域、浅水を好む。	魚の餌、植物生理の実験材料に利用、観賞用の水草として利用されることがある。	河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。	日本にあるのは雄株のみで、種子繁殖はしていない。	①要注意、②W100：日本③村中：A.④ＦＡＯ：9⑤対策：H23:1、⑥専門家：水生40、⑦各県：埼玉・⑦各県：愛知、・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀、⑧河川：25,55,62	世雑Ⅲ、雑管、便覧、JF、園芸事典、外来生物、世水Ⅲ、角野

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
71	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①③			トチカガミ	クロモモドキ（ラガロシフォン・マヨール）	*Lagarosiphon major*	湖沼や河川	Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	○	－	南アフリカ原産。ヨーロッパに分布。ニュージーランドやマスカリン諸島で侵略的。	近年、岡山県で野生化が確認。	1m、沈水性の多年草	湖沼、河川、水路、湿地に生育する。	観賞用に販売、利用される。海外では飼料としての利用も検討されている。	海外で侵略的な外来種とされており、生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。	*Elodea crispa*と呼ばれ、アナカリスと同属とされていた。弱アルカリと強光を好むので、（水槽内での育成は）むしろ難しい点がある。茎から分枝した新葉を摘み取り育てると、適応性があり、うまく育つ。	⑤対策：H23:1、⑩海外：ISSG	水草Ⅲ、片山久・狩山俊悟（2012）しぜんしぐらしき80号、IPSW、角野
72	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			トチカガミ	アマゾントチカガミ（アマゾンフロッグビット、リムノビウム・ラエビガータム）	*Limnobium laevigatum*	温暖地の池沼や湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	熱帯アメリカ（アルゼンチン）原産。	1973年以前に渡来、大阪、琉球で逸出。	浮遊性の多年草	湖沼、ため池、河川の淀みや水路等に生育する。	観賞用に販売、利用される。	種子や植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。	和歌山新宮市の国指定天然記念物「浮島の森」で駆除が行われた。繁殖は種子と繁殖茎で行う。	⑤対策：H23:2	便覧、水草Ⅲ、角野
73	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③			トチカガミ	外来セキショウモ（オオセキショウモ（ジャイアントバリスネリア）、セイヨウセキショウモに酷似した外来種）	*Vallisneria gigantea*, *Vallisneria* spp.	池沼や渓流	Ⅱ、Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	（○）	○	－	オオセキショウモは東南アジアに広く分布し、オーストラリア北部の一部にも自生。	オオセキショウモ：栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。 セイヨウセキショウモに酷似した外来種：千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曽三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。	沈水性の常緑の多年生	湖沼、河川など日当たりの良い水域に生育する。	オオセキショウモ：アクアリウムプランツとして販売されている。 セイヨウセキショウモに酷似した外来種：アクアリウムプランツとしてセイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である（早稲倉ほか、未発表）.	水辺に生育する希少種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、自然水域には、持ち込まない。	定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ藻が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的」との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種（セキショウモやコウガイモ）よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか（未発表）による。 在来種はセキショウモ*V. nsatans*とコウガイモ*V. denseserrulata*。セイヨウセキショウモ*V. spiralis*とバリスネリア・ナナ*V. nana*はISSGに掲載。	⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	水草Ⅲ、藤井・牧、未発表、早稲倉ほか、未発表、角野
74	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①②③			リュウゼツラン	アツバキミガヨラン	*Yucca gloriosa*	海岸砂浜	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	－	○	－	北アメリカの海岸地域原産。オーストラリアやヨーロッパ等に分布。 ニュージーランドでは環境雑草。	園芸植物として1961年以前に渡来。千葉県、静岡県で逸出。愛知県ではハギクソウなどの希少種の群落近くに侵入している。三重県では天然記念物の和具大島で繁茂し、駆除の対象となっている。	2.5m、低木	海岸の砂浜に侵入し、大きな株となるため、在来の海浜植物の生育を妨げている。寒さには強いので、中部以南であれば戸外で越冬する。日本には花粉を運ぶ昆虫がいないので、自然環境下では結実しないと言われている。株や地下茎が海流によって流され、分布が拡がると考えられている。	日本では本属の中で、庭園樹や岩石園に最も多く植栽されている。	海浜植物群落に侵入し、在来種の脅威となるとともに、景観上も問題となっている。ハギクソウのような希少種が生育する貴重な生態系である海岸砂地への影響が危惧されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には持ち込まないか、種子や植物体の逸出を防止する等の配慮が必要である。	愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。かつてはユリ科に含められていた。葉先に鋭い刺がある。地際の小株を分けて増やす。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：砂浜5、⑦各県：千葉・愛知	便覧、観葉、有用、園芸事典、GCW、半田（日本緑化工学会31(4)450.
75	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	ミズアオイ	ホテイアオイ（ウォーターヒヤシンス）	*Eichhornia crassipes*	池沼や湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	熱帯アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、熱帯アジア、オーストララシア、北アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	明治年間(一説では江戸時代)に渡来。本州、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、浮遊性の多年草	富栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面に生育する。	観賞用としてに渡来。ビオトープや水質浄化にも利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込まないだけでなく、利用する場合には逸出しないよう適切に管理する。	走出枝を伸ばして娘株を増やす。種子ができない場所も多い。	①要注意、②W100：IUCN、日本③村中：A、④FAO：12、⑤対策：H20:6、H23:4、⑥専門家：水生38、⑦各県：千葉・愛知・兵庫・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎・奄美、⑧河川：22,34,51、⑩海外：ISSG	雑管、便覧、帰化植物、外来生物、JF、園芸事典、IPSW、角野
76	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③		旧要注意	アヤメ	キショウブ	*Iris pseudacorus*	池沼や湿地	Ⅱ、Ⅳ			◎	○	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	（○）	◎	－	ヨーロッパから西アジア原産。オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島に分布。	1897（明治30）年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。	1.2m、多年草	湖沼、ため池、河川、水路、水田湿った畑地、林縁など周辺で繁殖し、湿原や草地にも侵入する。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適する。	園芸植物として渡来。民家や公園に植栽される。花が綺麗なので水辺に植えられることが多い。様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適するとされる。	花が美しいので水辺に植えられることが多いが、海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。近縁の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的撹乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	地下に横には太い根茎があり、分枝して繁殖する。	①要注意、②W100：日本、③村中：B、④FAO：10、⑤対策：H23:2、⑥専門家：水生16・草原38、⑦各県：北海道・青森・埼玉・愛知・広島・佐賀、⑧河川：54,88,98、⑩海外：ISSG	世雑Ⅲ、帰化植物、外来生物、園芸植物、JF、IPSW
77	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③			イグサ	コゴメイ	*Juncus* sp.	イグサなどが生育する河川敷や湿地	Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	ユーラシア産の*J. inflexus*に似るが別種である。	1990年渡来。本州の一部に分布。各地の河川敷に急速に分布を拡大。	1.5m、多年草	沿海地、河川敷、湿地に生育する。	本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、複数種が流通、利用されている。近縁種のイグサは、畳表の材料にするために栽培されるほか、薬用等にも利用する。	湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近年、各地の水湿地で在来イグサが消失し、本種に置き換わっている。原因は不明だが、競合（繁殖干渉か。）などの問題が懸念される。 在来種のイ*J. effusus* var. *decipiens*は茎の髄が連続しているが、本種は隔壁構造をしているので区別できる。	⑧河川：0,0.6、⑪その他：藤井委員	便覧、帰化植物、藤井委員、JF
78	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③		旧要注意	ツユクサ	ノハカタカラクサ（トキワツユクサ、トラデスカンティア・フルミネンシス）	*Tradescantia fluminensis*	二次林林床	Ⅳ			◎	×	－	○	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	南アメリカ原産。アジア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパ南部、オーストララシア、北アメリカ南部で侵略的。	昭和初年に渡来。本州、四国、九州で逸出。	長さ1m、多年草	石垣、崖地、路傍、林床などや湿った日陰に生育する。	園芸品種を含めて、観葉植物として利用。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や極相林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		①要注意、⑥専門家：雑木23・極相21、⑦各県：千葉・愛知・広島・愛媛・宮崎、⑧河川：14,37,51、⑩海外：ISSG	便覧、帰化植物、外来生物、有用、JF、園芸事典、IPSW
79	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③			イネ	オオハマガヤ（アメリカハマニンニク、アメリカカイガンソウ）	*Ammophila breviligulata*	海岸砂浜	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	◎	○	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－	北アメリカ原産。ヨーロッパに分布。	1955年頃から日本各地の飛砂防止に植栽。1976年に静岡で野生化が確認。青森、秋田、山形、宮城、新潟、石川、千葉、鳥取に分布。	1m、多年草	沿岸地域に生育する。	北米では砂止めに利用されている。北日本や日本海側を中心に、飛砂防止に植栽される。	近縁種が海外で侵略的となっており、本種も根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	近縁種のビーチグラス*A. arenaria*は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響が懸念。種子による繁殖は行わず、地下茎により栄養繁殖。	⑦各県：千葉、⑧河川：0,2,2	便覧、帰化植物、有用、ISSG、GCW、USDA

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
80	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③		旧要注意	イネ	シナダレスズメガヤ（ウィーピングラブグラス、セイタカカゼクサ）	*Eragrostis curvula*	河原、海岸砂浜	IV			◎	×	◎	◎	◎	◎	○	○	－	○	○	－	アフリカ南部原産。ヨーロッパ、アジア、オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島に分布。	1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.2m、多年草	牧草地、路傍、荒地、河原等に生育する。日当たりの良い、砂質土壌を好む。	栽培用に品種改良され、世界的にはやせ地の飼料生産に利用されるが草質が良くないため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速道路や宅地造成地の土とり用に利用された。近年は生態系への影響をが配慮され、あまり利用されなくなった。	河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	愛知県ではススキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカワラノギク（絶滅危惧Ⅱ類（VU））やカワラニガナ（準絶滅危惧（NT））への影響が危惧される。	①要注意、②W100：日本③村中：A.④FAO：8、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：河原46、⑦各県・埼玉・愛知・兵庫・広島・愛媛・佐賀・奄美、⑧河川：61,104,107、⑨三省：環・農・林・国都・国道	世雑Ⅲ、便覧、外来生物、IPSW
81	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①④③			イネ	チクゴスズメノヒエ	*Paspalum distichum* var. *indutum*	湿地や池沼	IV、V			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	－	－	北アメリカ南部原産。	1970年代に福岡県筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部に分布。	0.5m、多年草	湿地、水路、水田、湖沼、河川、ため池に生育する。キシュウスズメノヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	キシュウスズメノヒエの変種。防除困難な水田雑草。	③FAO：C、⑤対策：H20:<4、H23:2、⑥専門家：水生21、⑧河川：7,9,23	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅲ、角野
82	定着初期／限定分布	重点対策外来種	①③			カヤツリグサ	アサハタヤガミスゲ	*Carex longii*	湿地	IV			◎	－	－	○	◎	◎	○	○	－	－	－	○	北アメリカ原産。	1968年に神奈川県横須賀市の米軍基地内、2003年に藤沢市で採集。静岡市の麻機遊水地で定着し、急増中。	0.6m、多年草	砂質の湿地、湿草地、休耕田やその周辺の溝等、排水の悪い土地に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－		⑪その他：勝山委員	勝山(2013)
83	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①②③			カヤツリグサ	シュロガヤツリ（カラカサガヤツリ）	*Cyperus alternifolius*	暖地の池沼や湿地	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	○	○	－	マダガスカル原産。世界の熱帯に広く分布。	1937年以前に渡来、本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	1～2m、多年草	池沼、河川、湿地に生育する。古くから栽培されていたものが暖かい地方で逸出していたが、寒さにはかなり強く、最近は関東南部でも越冬し、野生化するようになった。水温は20～25℃にすれば旺盛に生育する。越冬温度は5℃くらい。	パピルスに類似した美しい形をしているため、古くから温室で観賞用に栽培される。切り花にも利用される。マダガスカルではむしろやこもを編むのに利用される。小鉢栽培に適した園芸品種コシュロガヤツリ（グランキリス）*C. alternifolius* 'Grancilic'も、流通、栽培される。	小笠原では河床で株となり群落を形成、在来の湿地植生（シダなど）を駆逐し、流水路を狭め、水生生物（魚類、甲殻類、水棲昆虫、クモ、サギ類）にも影響を与えている。自然水域には、持ち込まない。	Ylistでは本学名は広義とし、*C. alternifolius* ssp. *flabelliformis*を標準名としている。別学名*C. alternifolius* var. *obtusangulus*、*C. involucratus*、*C. alternifolius* var. *flabelliformis*。増殖は株分けが普通であるが、実生もでき、挿木も可能である。	⑥専門家：水生8、⑦各県：小笠原、⑧河川：9,17,22	便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、Ylist、園芸事典、角野
84	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種	①③		旧要注意	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	*Cyperus eragrostis*	湿地、河川敷	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	（○）	－	－	熱帯アメリカ原産。南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど温帯～熱帯に分布。	1959年に渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	1m、多年草	河川、畑、溝、湿地などに生育する。日当たりが良く、土壌の湿った所を好む。湿水条件下での生育は良くない。土壌の種類は選ばない。水辺で急速に分布拡大している。水辺の裸地を好むが、強固な根茎を持っていて永続性が高く、植生遷移を急速に進めるおそれがある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	保護対象の湿地への侵入の可能性もある。水湿地の微小植物にとっては大きな脅威となりうる。愛知県では自然度の高い場所に侵入することは少なく、在来植物への影響は限定的との記載。	①要注意、⑦各県：愛知、⑧河川：17,45,52	世雑Ⅲ、勝山委員、藤井委員、便覧、写真図鑑
85	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③		旧要注意	サンショウモ	オオサンショウモ	*Salvinia molesta*	暖地の池沼	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	（◎）	○	－	北アメリカ原産。オーストラリア、東南アジア、中央アフリカ等に広く分布。	1950年ごろ渡来。大阪で野生化。沖縄では1970年中期に渡来。	0.2m、浮遊植物	2006年、恩納村の農業用水ため池を覆い尽くしている状態が確認された。温暖地の池沼や水路に生育する。水温が高いと短期化で異常繁殖を繰り返す。	沖縄で、一部の愛好家により栽培。現在も観賞用に販売、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、国内でも繁茂が確認されている。近縁種のサンショウモS. natans(絶滅危惧Ⅱ類（VU））との競合、駆逐や、遺伝的撹乱が危惧される。水により胞子が散布されること等から、自然水域には持ち込まない。	別学名*S. auriclata*。熱帯では水田雑草となる。養魚場の雑草にもなる。近縁種のサンショウモ*S. natans*は絶滅危惧Ⅱ類（VU）。	①要注意、②W100：IUCN、④FAO：10、⑦各県：愛媛、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、外来生物、世水Ⅰ、JF、世雑Ⅲ、角野
86	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			モクマオウ	トクサバモクマオウ（トキワギョリュウ）	*Casuarina equisetifolia*		II、IV			◎	×	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	オーストラリア原産。アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海で侵略的。	琉球には明治初期、小笠原には1879（明治12）年に導入され、野生化。	20m、常緑高木	日当たりの良い砂地を好む。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ。耐塩性や耐乾性がある。	砂防林、防風林、肥料木、街路樹、公園樹として植栽される。材は薪炭用に、樹皮のタンニンが薬用に、海外では染料に利用される。日本では、地上戦で焦土となった沖縄の緑化樹として積極的に取り入れられた。緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で問題とされている。生物多様性の保全上重要なこうした地域での利用は、可能な限り控える等の配慮が必要である。	落ち葉が林床に蓄積し、アレロパシー作用もある。奄美地域では、アジサシ類の営巣地であるサンゴ砂にはびこり、野鳥の営巣地が破壊されたとされる。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島29、⑦各県・小笠原・奄美、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁
87	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②			クワ	パンノキ	*Artocarpus altilis*	シイ・カシ林	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	－	○	－	ニューギニアからメラネシア原産。世界各地で栽培。台湾では侵略的。	石垣島の一部の自然林内に多数の実生が確認されている。おそらく栽培品から鳥散布で分布域を拡大したものと思われる。	30m以上、常緑高木	世界各地の熱帯地域で栽培される。	栽培品種には種子がある二倍体と、種子のない三倍体がある。どちらも海外では食用にされる。観賞用にも栽培される。日本でも、市販、流通され、温室等で栽培される。	台湾では侵略的な外来植物とされ、日本でも石垣島では野生化が確認され、西表島への影響も懸念されている。生物多様性の保全上重要な地域に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*A. lncisus*, *A. communis*。石垣島や西表島のシイ・カシ林には定着する可能性が極めて高く、定着してしまえば植生に多大な悪影響を与えると思われる。沖縄では実生苗発生はあるが、鳥散布は観察されていない。海外ではコウモリが種子を散布。	⑪その他：横田委員	Ylist、有用、JF、園芸事典、日本造園学会、GCW
88	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			イラクサ	コゴメミズ（コメバコケミズ、ピレア・ミクロフィラ）	*Pilea microphylla*	陰湿な岩場	II、IV			◎	－	－	○	◎	◎	○	◎	－	（○）	○	○	南アメリカ原産。ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、ハワイ等の太平洋諸島、台湾等に分布。	戦後、沖縄と鹿児島に渡来。1991年に東京、1998年に神奈川で確認。本州と九州の一部、琉球に分布。	0.2m、多汁性の一年草	低地の敷石、石垣の間、湿った岩やコンクリートの隙間に生える。沖縄では通年みられる。	ピレア・ミクロフィラの名前で園芸用に流通、販売されている。	海外で環境雑草などとされ、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂し、石灰岩露頭の陰湿環境に生育する微小植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	増殖は挿し木、種子によるが、挿し木で容易に発根するので、通常は挿し木が道いられる。匍匐性の種では、株分けで容易に殖やせる。	⑪その他：藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸事典、GCW
89	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			スベリヒユ	ケツメクサ（ヒメマツバボタン、ケヅメグサ）	*Portulaca pilosa*	海岸の隆起サンゴ礁や岩礁	II、IV			◎	－	－	○	◎	◎	○	◎	－	－	－	－	熱帯アメリカ原産。東南アジアなどに分布。	1939年までに渡来、1954年に熊本で採集、本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	0.3m、多肉質の一年草	乾燥した日当たりのよい道端、敷石の間、畑、砂地に生育する。沖縄県では集落や耕作地に広くみられるだけでなく、海岸の隆起サンゴ礁や岩礁にも生える。	観賞用に栽培されるマツバボタンに比べて花が小さい。一般的には販売や栽培は行われていない。	－	海岸の岩礁は、固有種オキナワマツバボタンや今年7月に横田委員らが記載したアマミマツバボタンの生育環境と大き（重なるため、これらの種にとっては競合種となる。繁殖力が強く、水挿しで発根する。別学名*Portulaca australis*。	⑪その他：横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、帰化植物、Ylist
90	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			ベンケイソウ	セイロンベンケイ（トウロウソウ、セイロンベンケイソウ、ハカラメ）	*Bryophyllum pinnatum*	海岸岩場や石灰岩地	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	マダガスカル原産。アジア、オーストララシア、アフリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。	渡来年代は不明だが、沖縄にはかなり古い時代に渡来。宮崎、鹿児島、琉球、小笠原で逸出。	1.2m、多肉性の多年草	海浜地や山地の裸地や路傍に生育する。沖縄では人里近くの岩場～石灰岩地域の山頂まで侵入し繁茂している。小笠原では岩場で群落を形成し、荒原植生を駆逐している。	観賞用に栽培される。薬用にも利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で繁茂して在来種と競合し、駆逐している。1枚の葉からでも繁殖できる植物であるため、温暖な地域では特に、自然環境に持ち込まない。	ISSGでは*Kalanchoe pinna*ta、その他の別学名*B. calycinum*。葉を地上に置くだけで、葉脈の末端から不定芽を出して繁殖する。	⑦各県：小笠原、⑩海外：ISSG	便覧、帰化植物、写真図鑑、園芸、Ylist、有用、JF、園芸事典
91	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			マメ	ソウシジュ（タイワンアカシア）	*Acacia confusa*		II、IV			（◎）	×	◎	○	◎	◎	◎	◎	－	－	◎	－	フィリピン原産。アジアや太平洋地域で栽培され逸出。ハワイや北マリアナ諸島等で侵襲的。	渡来年代不明、広島、琉球、小笠原諸島に分布。	15m、常緑高木	温暖で湿潤な気候を好み、荒地や撹乱地に生育する。亜熱帯、熱帯では年中開花する。	九州南端以南で、荒廃地の造林や、耕地防風林を兼ねた緑肥木として導入。台湾では街路樹、造林用に植栽が多い。海外では薬用や食用にされ、材木も利用される。	海外で侵略的とされ、南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。		⑩海外：ISSG	便覧、有用、樹木、熱帯花木、JF、園芸事典、琉球弧

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
92	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③		旧要注意	マメ	ギンネム（ギンゴウカン、タマザキセンナ）	*Leucaena leucocephala*		II、IV			◎	×	◎	○	◎	◎	◎	◎	—	—	◎	—	中央・南アメリカ原産。ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、太平洋諸島、インド洋諸島、大使洋諸島に分布。	小笠原には江戸時代末期に植樹の記録があり、明治時代初期以降に本格的に造林された。沖縄には明治時代末期以降にスリランカから導入された。	10m、常緑小高木	亜熱帯から熱帯の日当たりの良い道端や原野、林縁に生育する。やせ地でも育つが、土の浅いところでは樹高1～2mで止まる。小笠原諸島や沖縄では、植栽地から周辺の空地や道路沿いの撹乱地等に侵入し、放棄された畑や宅地等に急速に広がった。	緑化、緑肥、飼料、砂防、薪炭材、パルプ用材として利用。分布域と形態によりハワイ型まったはベルー型と呼ばれる低木型と、サルバドル型と呼ばれる高木型に分けられる。生長の早い中高木になる林業品種が育成されている。沖縄県の奨励品種に指定されている。	海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で在来種との競合、駆逐が危惧されている。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。	小笠原諸島でギンネムが侵入した林は二次遷移が進まず、種の多様性が低くなった。父島、母島では返還時程の勢力はないが、新たな道路整備、農耕地放棄などで一部復活している。	①要注意、②W100：IUCN、③村中：B、④FAO：11、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島34、⑦各県：小笠原・奄美、⑨三省：国都・国道、⑩海外：ISSG	便覧、有用、樹木、農林水産省、外来生物、園芸事典、JF、IPSW
93	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②			ツリフネソウ	アフリカホウセンカ	*Impatiens walleriana*	林床	II、IV			◎	—	—	○	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	東アフリカ、モザンビーク原産。熱帯地域の島嶼に分布。	沖縄へは復帰後導入され、1980年頃から野生化が散見されるようになった。現在では広い範囲で雑草化しつつある。	0.7m、多年草	自然林、植林地、河原、荒地に生育する。直射日光を避ける方が生育が良いが、最近の園芸品種は強光も耐える。20～25℃もあれば挿し芽で良く根付くので、繁殖はたやすい。	1964年にオランダで一代交配種がつくられ世界各地に広まった。日本での本格的な栽培は1970年代に入ってから。花色も豊富に改良され、様々な園芸品種が鉢植えや花壇に植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも奄美地域で繁茂している場所がある。耐陰性があるので温暖な地域では林内に入り込む可能性もあることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	有用では*I. sultani*。種子が熟すと、果皮が裂開して飛び散る。	⑦各県：奄美、⑩海外：ISSG	有用、園芸事典、写真図鑑、JF、Ylist
94	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③		旧要注意	フトモモ	テリハバンジロウ（キバンジロウ、キバンザクロ、シマフトモモ）	*Psidium cattleianum*	森林	II、IV			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	ブラジル原産。世界各地で栽培され、オフリカ南部、オーストラリア、合衆国南東部、インド洋諸島、ハワイ等では侵略的。	風味が優れた品種であるキミノバンジロウ*f. lucidum*が、1909（明治42）年に輸入され、小笠原で栽培されて野生化した。キミノバンジロウの沖縄への渡来年代は不明だが、1940年代後半には栽培があったと推測される。母種のテリハバンジロウは、昭和初期から栽培されている。	2.5m、常緑小低木	農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、川岸、低木林、市街地、湿地に生育する。耐陰性がある。日本では父島の畑地や屋敷跡等に野生化している。	果実を生または加工して食用にするために栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも小笠原諸島では野生化している。鳥により種子が散布されること等から、小笠原諸島等の生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*P. littorale*。種子は果実を食べる動物や鳥により運ばれる。	①要注意、IUCN、⑥専門家：海洋島22、⑦各県：小笠原、⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、Ylist、有用、外来生物、IPSW、JF
95	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			ヒルガオ	モミジバヒルガオ（タイワンアサガオ、モミジヒルガオ）	*Ipomoea cairica*		II、IV			◎	○	—	◎	◎	◎	○	◎	—	—	○	—	熱帯アフリカ原産。オーストララシア、北アメリカ、南アメリカ等に分布。	1933年以前に渡来。栃木、熊本、宮崎、鹿児島、琉球、小笠原諸島（聟島）に分布。奄美大島、徳之島、沖縄島では既にかなり広がっている。沖縄島北部の国有林にも定着し始めた。	数m、つる性の多年草	海岸砂丘、断崖、林縁、川岸に生育する。つるが良く伸びて、性質強健のため、広い地域に分布する。	園芸品種があり、花卉として栽培される。熱帯では飢饉時に食用にする。	海外で侵略的な外来種とされ、つる性の強健な植物であることから、温暖な地域では在来植物との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	奄美地域では、ソコベニヒルガオ*I. gracilis*など、鹿児島県RDBの近縁種が複数生育する。アメリカハマグルマと同様に非常に侵略的。塊根を持つ。周年開花性である。	⑦各県：奄美、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員、横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、Ylist、草本III、園芸事典、ISPW、JF
96	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②			クマツヅラ	ヒメイワダレソウ（ヒメイワダレ）	*Phyla canescens*	河原や草原	I、II、IV			◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	—	（○）	◎	—	南アメリカ（ペルー）原産。	昭和初年（1926年）に渡来。宮崎、琉球に分布。	0.3m、小低木	牧草地、草地、水路、氾濫原、灌漑地域の下流に生育する。耐寒性は弱い。粗い土壌で乾燥気味に栽培する。	園芸植物として渡来。本種とともに、在来種のイワダレソウ*Phyla nodiflora*（*L. nodiflor*）またはその交雑品種（*L. nodiflora* × *L. canescens*）が、法面、畦畔、公園等の緑化に利用される。	日本では影響は報告されていないが、海外で侵略的となっていることから、生物多様性の保全上重要な地域の特に海浜や河原等に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*Lippia canescens*、*Lippia repens*。1979年頃導入されたヒメイワダレ（*P. incisa*）（池原，1989）や、琉球列島で栽培されるヒメイワダレソウ*P. nodiflora* cv. Rosa（初島・天野，1994）も本種と思われる。オーストラリア等の海外で、環境雑草等とされている。植物体の断片で繁殖するので、増殖は株分け、挿し芽で容易である。種子でも繁殖する。	⑦各県：奄美、⑪その他：藤井委員	便覧、園芸事典、池原（1989）、（初島・天野，1994）、GCW
97	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			リュウゼツラン	アオノリュウゼツラン（リュウゼツラン）	*Agave americana*	海岸岩場	II、IV			◎	×	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	—	○	—	合衆国西部～メキシコ原産。ヨーロッパ、アフリカ南部、オーストララシア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパの南部と地中海諸島、アフリカ南部、大西洋諸島で侵略的。	1879（明治12）年に輸入。静岡、香川、小笠原、沖縄に分布。	2.5m、多肉性の常緑の多年草	小笠原では岩場で群落を形成し、荒原植生を駆逐している。耐寒性が強く、関東以西では露地植えが可能である。	初めは繊維原料植物として導入されたが、後に導入されたサイザルアサ*A. sisalana*に比べて繊維質が弱いために栽培が中止された。近年は、様々な斑入りの園芸品種が観賞用に栽培される。メキシコでは発酵酒の原料となる。	海外で侵略的な外来種とされ、日本では小笠原諸島では在来種を駆逐している。生物多様性の保全上重要で温暖な地域では、自然環境中へ拡散しないように利用する。	単にリュウゼツランというときは、葉に斑が入った栽培品種フクリンリュウゼツラン'Marginata'をさす。種子は風で散布される。植物体の断片で繁殖する。	⑦各県：小笠原、⑩海外：ISSG	便覧、観葉、園芸事典、JF、IPSW
98	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②③			イネ	モンツキガヤ（アイダガヤ、ナンゴクヒメアブラススキ）	*Bothriochloa bladhii*	海岸草原	II、IV			◎	—	—	◎	◎	◎	○	◎	—	—	—	—	オーストラリア産の植物で原記載されたが、熱帯アジアからオフリカに広く分布する。	2005年に沖縄県竹富町、2000年に東京都小笠原村で確認。小笠原の父島と兄島で分布を拡大。	0.6～1m、多年草	路傍、海浜等、直射日光が豊富に当たる立地で生育する。水はけのよい土壌を好み、酸性、乾燥、貧栄養な土壌に生育する。	海外では、被覆植物として利用される。暖地では牧草に利用されることもあるが品質は高くない。北アメリカでは交雑品種もある。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	海外で侵略的な植物とされ、日本でも小笠原で分布を拡大していることから、生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。	ノヤギの食圧を受けて生育数や生長が抑制されていたが、ノヤギの駆除により低密度化したことで、増加している。別学名*B. glabra*、*B. glabra* ssp. *haenkei*、*B. glabra* var. *perfection*、*B. intermedia*、*B. intermedia* var. *punctata*、*B haenkei*、*Andropogon intermedia*、*Amphilophis intermedia*。	⑪その他：林野庁	邑田・米倉（2012）、Ylist、生物多様性センターhttp://www.biodic.go.jp/center/hyouhon/HP_top.html、小笠原植物誌http://www.ogasawara-syokubutusi.com/index.htm、USDA、**PIER**
99	小笠原・南西諸島	重点対策外来種	①②			イネ	ヨシススキ（サッカラム パープルピープルグリーター）	*Saccharum arundinaceum*		II、IV			◎	—	—	○	◎	◎	○	◎	—	—	○	◎	インド～東南アジア原産。熱帯～温帯アジアに分布。	1935年以前に渡来。琉球で逸出。	2～5m、多年草	日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばず、畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。	飼料植物や防風垣として渡来した。サッカラム パープルピープルグリーター'Purple People Greeter'という品種が流通、販売されている。	大型で強固な株を形成する植物であることから、在来種の生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。外国産のススキに混入したものを持ち込まない注意も必要である。	別学名*Erianthus arundinaceus*、サトウキビ*S. officinarum*の近縁種。海外から輸入されるススキに混入している可能性がある。バイオ燃料製造等を目的に、既に、九州本土以北では種を結実しない品種である栽培系エリアンサスが開発されているとともに、現在、完全に種子をつけない不稔性の栽培系エリアンサスの品種開発が進められている。	⑪その他：藤井委員	Ylist、便覧、沖縄野外、世雑III、USDA、写真図鑑
	その他の総合対策外来種																																
100	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ミカヅキゼニゴケ	ミカヅキゼニゴケ	*Lunularia cruciata*		IV			◎	—	—	◎	◎	◎	○	—	—	（○）	—	—	地中海沿岸原産。北アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、東アジアに分布。	1929（昭和4）年に宮城県仙台市で見出された。本州、九州。初めは大都市だけに見られていたが、街道沿いに広がり、全国の農村部に広がっている。	苔類	市街地の道路脇や人家周辺の湿った土や石垣上に群生する。山地ではみられない。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—	雌雄異株だが、日本では雌株は未発見で、もっぱら無性芽によって繁殖しているらしい。海外では農業雑草となっている。	⑪その他：日本蘚苔類学会	便覧、日本蘚苔類学会、写真図鑑、コケ309頁、有用、Hattori（1944）Bot. Mag. Tokyo 58: 1-7、GCW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
101	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウキゴケ	ウロコハタケゴケ	*Riccia lamellosa*		IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	－	北アメリカ原産。	2000年に埼玉県で確認。近年では関東地方の平地ではふつうに発見されるようになった。	苔類	平地の庭や畑に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ（カズノゴケ）*R. fluitans*や、その変化した種であろうと考えられるリシア・ルヘナーナ*R. rhenana*は、観賞用の水草として利用される。	－	日本産のウキゴケ属*Riccia*は8種とされる。同属の中で最大の植物体をしており、際立つ特徴を持つことから野外においても識別は容易である。繁殖力が強く、同属の在来種と競合している。生育地では地面を覆いつくすことも多く、今後更に拡大すると農業や園芸に被害を及ぼすことが危惧される。学名は広義のlamellosaであり、狭義の種としては別である。	⑪その他：日本蘚苔類学会	コケ316頁、USDA、古木達郎.(2000.)蘚苔類研究7：314-316.、園芸事典、水草Ⅰ、日本蘚苔類学会
102	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウキゴケ	サビイロハタケゴケ	*Riccia nigrella*		IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	－	－	－	北アメリカ原産。	2005年に初めて報告されたが、1990年代にも採集されている。	苔類	人為的な影響が強い立地に生育し、関東地方の公園や社寺の境内で急速に広がっている。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ（カズノゴケ）R. fluitansや、その変化した種であろうと考えられるリシア・ルヘナーナR. rhenanaは、観賞用の水草として利用される。	－	同属の在来種と競合しており、今後も分布が拡大することが予測される。	⑪その他：日本蘚苔類学会	USDA、園芸事典、水草Ⅰ、日本蘚苔類学会、河済英子・古木達郎（2005.）蘚苔類研究9: 6-11.
103	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イワヒバ	コンテリクラマゴケ（レインボーファーン）	*Selaginella uncinata*	温暖地の林床	IV			◎	－	－	○	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	中国原産。合衆国に分布。フロリダ州で雑草化。	園芸植物としてヨーロッパ経由で1966年頃に渡来。関東～九州、四国、琉球で逸出。	0.6m、常緑の多年草	温室等で栽培されてきたが、近年温暖地以西で、逸出、野生化している。人家近くの垣根の下等に生育する。明るい日陰を好む。耐寒性はそれほどない。	ヨーロッパ等で観賞用に栽培される。薬草としても利用される。	耐除性があり、極相林への侵入が危惧されている。特に温暖な地域で生物多様性の保全上重要な環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。		⑥専門家：極相6、⑦各県：佐賀、⑧河川：2,6,7,	便覧、写真図鑑、シダ、有用、園芸事典、JF、GCW、USDA
104	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	シャクチリソバ（シュッコンソバ、ヒマラヤソバ）	*Fagopyrum dibotrys*	河川敷	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	－	－	－	○	－	中国南西部原産。イギリスやニュージーランドに分布。	昭和初期に中国から導入。1960年代から野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。	1.2m、多年草	林縁や川沿いなどの半陰地に生育する。関西の河川敷で急速に繁茂している。	種子は食用にされ、若芽や若葉は野菜として食べられる。日本では薬用植物として中国から導入され、近年も薬用として栽培されるが、作物としては栽培されていない。	種子と根茎で繁殖し、半陰地でも生育でき、河川を中心に分布を拡大していること等から、河川を通じて、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	強固な根茎による栄養繁殖によって生育地を拡大し、他の植物を駆逐する。別学名*F. cymosum*、*Polygonum cymosum*。	③村中：C、⑧河川：17,35,43	便覧、帰化植物、藤井委員、写真図鑑、Ylist、有用、GCW
105	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				タデ	カライタドリ	*Fallopia forbesii*	イタドリやオオイタドリの生育地周辺	Ⅰ、IV			◎	◎	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	◎	－	朝鮮、中国原産。	八甲田山の後藤伍長銅像のある銅像茶屋からみちの〈深沢温泉までの車道を拡幅した法面緑化工事に種子吹き付けで群生地が発生した。	1.5m、多年草	別の車道沿いにも発生しているので、分布域が広がって来ていると推測出来る。	日本では、法面緑化工事に利用。	海外で侵略的な外来種とされている日本のイタドリと同様に、本種も日本で侵略的となる可能性が高いと考えられる。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。	交雑による遺伝的攪乱が懸念。青森県では国立公園内で蔓延することは望ましくないとしている。青森県では学名が*F. lorbesii*となっているが誤り。別学名*Polygonum reynoutria* var. *elliptica*、*Reynoutria forbesii*、*Reynoutria japonica*、海外では日本のイタドリ*Fallopia japonica*が侵略的となっている。	⑦各県：青森	Ylis
106	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ヒメツルソバ（カンイタドリ）	*Persicaria capitata*	海岸岩場	IV			◎	－	○	○	◎	◎	○	○	－	－	○	－	中国南部～ヒマラヤ原産。熱帯～温帯で栽培。	明治中期に渡来し、1960年代以降、野生化。本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布。	長さ0.5m、多年草	市街地や民家周辺の庭先や石垣、コンクリートの隙間に生育する。耐寒性はやや弱いが、高温や乾燥に強いため雑草化する。伊豆半島など石垣や溶岩の間にはびこっている。自然の岩場でどこまで進出できるかは不明である。	観賞用に渡来した。現在も流通し、鉢物として販売されたり、ロックガーデン等で栽培される。	河川で分布を拡大しており、自然の岩場に侵入して雑草化する可能性があること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	原産地では形態の変異が大きいが、日本に分布している型は葉が小さく、密につき、全体が紅紫色を帯びる。別学名*Cephalophilon capitatum*、*Polygonum capitatum*。	⑦各県：奄美、⑧河川：0,5,13	便覧、写真図鑑、帰化植物、勝山委員、JF、園芸事典、Ylist
107	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ヒメスイバ	*Rumex acetosella*	海岸砂浜、山地草原	IV、V			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	－	◎	ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアに分布。温帯～寒帯を中心に分布し、熱帯～亜熱帯の高地にも広がる。	明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.5m、多年草	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地～半湿地を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。	海外では、鉱業地域の緑化や食用にされる。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	YListでは、標準名*Rumex acetosella* ssp. *pyrenaicus*、別学名*Acetosella angiocarpa*、*Rumex angiocarpus*。種子と根茎により繁殖。種子の伝播は風、雨、動物等による。種子に休眠性がある。アレロパシー作用がある。シュウ酸を含む。	③村中：C、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：砂浜24、⑧河川：43,82,86、⑩海外：ISSG	世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、雑管、花粉、Ylist
108	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				タデ	ナガバギシギシ(チジミスイバ)	*Rumex crispus*	ノダイオウなどの在来のギシギシ類の生育地周辺	Ⅰ			○	◎	－	◎	◎	◎	○	－	－	(○)	－	－	ユーラシア原産。北アメリカ、南アメリカ、太平洋諸島など、温帯～熱帯に分布。オーストラリアで侵略的。	1891年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、多年草	牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地などに生育する。低地から高地まで生える。日当たりのよい湿ったところを好む。	外国では、薬用や花序がドライフラワーに利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	ノハラダイオウ*R.* × *pratensis*は、エゾノギシギシ*R. obtusifolius*との雑種とされる。外国産ギシギシ類は、ノダイオウやマダイオウとの交雑が懸念される。海外では、シュウ酸による羊の中毒が報告されている。別学名*Rumex crispus* ssp. *Fauriei*。	③村中C：⑥、専門家：交雑11*、⑧河川：39,77,90、⑩海外：ISSG	世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、牧草、Ylist、園芸事典、IPSW
109	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	タデ	エゾノギシギシ（ヒロハギシギシ）	*Rumex obtusifolius* var. *agrestis*	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来のギシギシ類の生育地周辺	Ⅰ、Ⅱ、IV			◎	◎	－	◎	◎	◎	○	◎	－	○	－	－	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。	明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州。	1.3m、多年草	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。	海外では薬用に利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	ノハラダイオウ*R.* × *pratensis*は、ナガバギシギシ*R. crispus*との雑種とされる。その他にも複数の雑種が知られる。外国産ギシギシ類は、ノダイオウやマダイオウとの交雑が懸念される。	①要注意、③村中：C、④FAO:6、⑤対策：H20:<4、⑥専門家、草原43・交雑11*、⑦各県：青森・愛知・京都、⑧河川：61,105,108、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	便覧、写真図鑑、雑管、外来生物、世雑Ⅱ
110	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ナデシコ	ムシトリナデシコ（ハエトリナデシコ、コマチソウ）	*Silene armeria*	河原	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	ヨーロッパ原産。各国で観賞用に栽培され、野生化。	江戸時代末期に観賞用植物として渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.7m、一年草	河川敷、市街地、荒地、道端に生育する。病気、害虫もなく丈夫である。日当たりと排水の良い肥沃な土壌を好む。	観賞用植物として花壇などで栽培される。玉咲きの園芸種などもある。	河川で分布を拡大しており、河原に生育する植物や景観への影響が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。	食虫植物ではない。種子で増殖する。	⑥専門家：河原17、⑧河川：50,97,104	便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、帰化植物、藤井委員
111	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ナデシコ	マンテマ（マンテマン）	*Silene gallica* var. *quinquevulnera*	海岸砂地、河原、湖岸の砂地	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	(○)	○	－	ヨーロッパ原産。アフリカ、西アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等、温帯～熱帯に分布。オーストラリア等で雑草化。	江戸時代に園芸植物として渡来。本州、四国、九州、屋久島に分布。	0.5m、一年草	海浜の砂地や疎林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地に生育する。海岸や湖岸の砂丘植生において侵略的である。	流通、市販される。	河川で分布を拡大しており、種子が風や動物により散布され、海浜の砂地に侵入すること等から、海岸や湖岸の砂丘植生への影響が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	狭義のマンテマ*S. gallica* var. *quinquevulnera*とシロバナマンテマ*S. gallica* var. *gallica*を含む。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。	⑧河川：30,49,62	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、GCW、世雑Ⅱ
112	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アカザ	ホコガタアカザ	*Atriplex prostrata*	塩湿地	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	(○)	－	－	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリアやニュージーランドで雑草化。	1940年渡来。北海道～九州の一部に分布。	0.8m、一年草	海岸の裸地や海岸埋立地に群生する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	⑥専門家：砂浜での回答は外来ハマアカザ類。別学名*A. hastata*。	⑥専門家：砂浜5・塩湿7、⑧河川：8,14,24	便覧、写真図鑑、Ylist、帰化植物、世雑Ⅱ、GCW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
113	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				メギ	ヒイラギナンテン	*Berberis japonica*	都市近郊の森林林床	Ⅳ			◎	－	－	◎	○	◎	◎	－	－	－	○	－	中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。	1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。	3m、常緑低木	半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。	本属では日本で最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽される。	河川で分布がやや拡大傾向にあり、半日陰を好むこと等から、雑木林への影響が危惧されている。このような環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名は*Mahonia japonica*。近縁種のセイヨウヒイラギナンテン*M. aquifolium*はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。実生、挿木などで繁殖。	⑥専門家：雑木11、⑧河川：3,9,15	便覧、有用、木本Ⅰ、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、服部（1996）
114	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				ケシ	ハカマオニゲシ（ボタンゲシ）	*Papaver bracteatum*		Ⅴ			○	－	－	◎	○	○	○	－	◎	△	○	◎	イラン原産。	千葉県では平成以前に侵入し、生育量はごく少ない。千葉県以外でも、誤って栽培されている可能性はある。	1.5m、多年草	近縁種のオニゲシ*P. orienntal*は一般的に栽培されているので、誤って混在している可能性がある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されているが、近縁種のオニゲシまたはオニゲシとの交雑で作られた園芸品種との区別が困難なため、誤って流通し、観賞用に栽培されたり、逸出することがある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生（支）局　麻薬取締部（支所）、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。園芸事典では、オニゲシ*P. orienntale*の別名とされ、中間形があるため区別が困難とされている。	⑦各県：千葉	便覧、園芸事典、（西田委員）
115	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ケシ	アツミゲシ	*Papaver somniferum* ssp. *setigerum*		Ⅴ			○	－	－	○	○	○	－	－	◎	－	－	○	北アフリカ原産。世界の各地に分布。	1964年頃に渡来。関東以南～、九州、四国で逸出。	0.8m、越年草	線路や道路に沿った空地に散発的に生育する。	花が綺麗なので、麻薬取締法の規制対象であることを知らずに栽培されることがある。	本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生（支）局　麻薬取締部（支所）、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡する。	麻薬取締法の対象種。ケシ*P. somnoferum*と共通点が多く、同一種の亜種として扱われることもある。別学名*Papaver setigerum*。	⑤対策：H20:<4、⑦各県：千葉・広島・愛媛、⑧河川：0,1,3	世雑Ⅱ（母種）、便覧、写真図鑑、帰化植物、西田委員、Ylist
116	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	アブラナ	ハルザキヤマガラシ（セイヨウヤマガラシ）	*Barbarea vulgaris*	亜高山帯、河川敷	Ⅱ、Ⅳ			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	（○）	－	◎	ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布し、原産地は不明。	明治時代末年に渡来、1960年頃に野生化、北海道、本州、四国、九州に分布。	0.9m、越年草～短命な多年草	川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—	愛知県では、現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。標高が高い地域にも侵入しているので、自然性の高い環境への影響が懸念される。	①要注意、②W100：日本、③村中：B、6、⑤対策：H20:<4、H23:2、⑥専門家：河原30、⑦各県：青森、⑧河川：18,39,44	世雑Ⅱ、外来生物、便覧、帰化植物、写真図鑑
117	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アブラナ	セイヨウカラシナ（カラシナ）	*Brassica juncea*	河原	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	－	西アジア原産。アジア、ヨーロッパ、北アフリカ、オーストラリア、南北アメリカに分布。	奈良時代から平安時代初期頃に中国から渡来したらしいが、戦後分布を広げているのはヨーロッパ、北アメリカから入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、一年草	河川敷、堤防、畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良い。関西地方の河川敷などに大群落がある。	奈良時代から平安時代初期から栽培される。野菜として栽培されるカラシナの原種で、様々な品種が育成されている。種子からはカラシ油がとれ、良質の蜜源植物である。中国では薬用にされる。	河川で分布を拡大しており、大繁茂することがあるため、河原や草原に生育する植物との競合、駆逐が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。	群馬県では太い根が堤防に深く食い込み、堤防の強度低下を引き起こす。アブラナ*B. rapa*とクロガラシ*B. nigra*のを合わせた複2倍体。多量に摂取すると中毒の原因になる物質を含む。アレロパシー作用がある。広島では特産野菜との交雑を防ぐために駆除される。	③村中：C、⑤対策：H23:1、⑥専門家：河原37・草原28、⑦各県：埼玉・愛媛・群馬、⑧河川：44,76,80	世雑Ⅱ、便覧、牧草、写真図鑑、有用、園芸事典、JF
118	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アブラナ	オニハマダイコン	*Cakile edentula*	海岸砂浜	Ⅳ			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	◎	北アメリカ東岸中北部原産。オーストラリア等で雑草化。	1982年渡来。北海道、本州の一部に分布。	0.5m、一～二年草	海岸砂丘に生える。	海外では、多肉質の茎葉を食用にする。	—	青森県では、在来種と競合している様子は見られない。千葉県では生育量は少ないとされている。絶滅危惧種のイソスミレのような砂丘地帯に生える。京都、利尻島などで駆除。裸地砂浜の地表を利用する海浜性昆虫等への植被の影響が懸念。	⑥専門家：砂浜7、⑦各県：青森・千葉、⑧河川：7,8,15	便覧、帰化植物、浅井（1993）、GCW、藤井委員
119	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				バラ	ピラカンサ類	*Pyracantha* spp.	河原の固有種の生育地	Ⅳ			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	－	○	－	○	－	ヨーロッパ東南部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシ*P. coccinea*は南東ヨーロッパ～小アジアに分布。タチバナモドキ*P. angustifolia*は中国原産、ニュージーランドに分布、アフリカ南部、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシ*P. crenulata*はヒマラヤ原産、ニュージーランドに分布、アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。	トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。	2～6m、常緑低木	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育する。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえ良ければ土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。	花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。	河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。	⑧河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。	⑥専門家：河原7、⑧河川：7,14,37 7,27,44	便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸事典、IPSW
120	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				マメ	エニシダ（エニスダ）	*Cytisus scoparius*	河川敷、海岸	Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	－	（◎）	◎	◎	ヨーロッパ原産。アフリカ南部、アジア、オーストララシア、北アメリカ、ハワイなどに分布。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	3m、常緑低木	道路の法面や宅地造成による新開地などに生育する。海外では、草地、荒地、氾濫原、海岸の低木林、硬葉樹林に生育する。	様々な園芸品種が、観賞用に栽培されている。緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、種子が車、水、鳥によって散布され、急速に分布を拡大すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	影響は、イタチハギとほぼ同等と思われる。棘はない。海外では道路に沿って広がることから、種子が車両に付着して散布されると考えられる。種子は水や鳥により散布される。種子の寿命は長い。	⑩海外：ISSG	便覧、帰化植物、環境省、勝山委員、JF、有用、IPSW
121	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				マメ	アレチヌスビトハギ	*Desmodium paniculatum*	河原、里草地	Ⅳ			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	◎	北アメリカ東南部原産。カナダで逸出。	1940年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1m、多年草	荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—	一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。別学名*Hedysarum paniculatum*。付着しやすい果実で、種子の分散能力が高い。河川でも増加傾向にある。	⑤対策：H23:1、⑦各県：京都・広島、⑧河川：21,49,57	便覧、写真図鑑、勝山委員、帰化植物、GCW
122	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				カタバミ	オオキバナカタバミ（キイロハナカタバミ）	*Oxalis pes-caprae*	落葉樹の林床	Ⅳ			◎	－	－	○	◎	◎	○	○	－	（◎）	○	－	南アフリカ原産。ニュージーランド、アメリカ合衆国、アジアに分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。	1890年代に入り、1961年に野生化が確認。関東～琉球で逸出。	0.2m、多年草	森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭、牧草地、樹園地、荒地などに生育する。日当たりが良い、肥沃地を好む。鱗茎で繁殖。地中海沿岸の海岸地域で非常に多くみられる。冬に繁茂し、耐寒性がある。	観賞用に栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、本州太平洋側の雪の降らない地域で明るい落葉広葉樹林に侵入するおそれがあるため、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	じわじわと広がっている。一度入り込むと駆除が難しい。家畜に有害。	⑩海外：ISSG	世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、勝山委員、IPSW、園芸事典

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
123	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				トウダイグサ	ナンキンハゼ	*Triadica sebifera*	照葉樹林	IV			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	○	○	－	○	－	中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。	園芸植物として江戸時代に渡来。関東～琉球で逸出。	15m、落葉（熱帯では常緑）高木	自然林、植林地、草原、撹乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。	庭木、公園樹、街路樹として植栽される。盆栽にも利用される。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用等に利用される。	海外で侵略的な外来種とされており、鳥や水により種子が散布され、土壌環境にも影響する。日本でも河川で分布を拡大しており、草原や雑木林等への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所や自然水域の周辺では、利用を控える等の配慮が必要である。	繁殖は実生で行う。別学名 *Sapium sebiferum*。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンも増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。	③村中：C、⑥専門家：草原23・雑木10、⑦各県：兵庫、⑧河川：23,50,64、⑩海外：ISSG	便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF、奥川・中坪（2009）、MAESAKOら（2007）、服部
124	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				ツリフネソウ	アカボシツリフネ（アカボシツリフネソウ、ケープツリフネ、ケープツリフネソウ）	*Impatiens capensis*	湿地	IV			◎	－	－	○	◎	◎	○	－	－	－	－	－	北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、野生化。	1992年渡来。千葉県野田市利根運河に大群落がある。	0.4～2m、一年草	湿生植物へに影響が懸念される。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、野生化している。	本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性はある。	－	在来種のキツリフネ *I. noli-tangere* によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネ *I. biflora* の帰化の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。	⑦各県：千葉	便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW
125	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ウコギ	カミヤツデ（ツウソウ（通草）、ツウダツボク（通脱木））	*Tetrapanax papyrifer*	河川敷や林縁	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	－	－	（○）	○	－	中国南部、台湾原産。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国で雑草化。	1935年以前に渡来。関東～九州、四国、琉球で逸出。	5m、常緑低木	湿潤な土壌を好む。河川敷などで繁茂。関東地方では寒さで傷んで落葉低木となる。	日本では暖地に観賞用に栽培される。幹の髄はと通草紙として造花の材料にされた。薬用にも利用される。	鳥により種子が散布され、河川敷等で繁茂。小型の在来種を被除したり、景観的にも問題になっている。こうした問題を引き起こす恐れのある場所には、持ち込まない。	神奈川で増殖し駆除。地下に伸ばした根から新苗を作る。増殖は実生、挿木、株分けによる。生長は早い。別学名 *T. papyrifera*、*T. papyriferus*、*T. papyriferum*	⑦各県：愛媛2,2,4、⑧河川：2,2,4	便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、Ylist、GCW
126	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	セリ	ドクニンジン	*Conium maculatum*		IV、V			◎	×	－	◎	○	◎	○	－	◎	◎	○	－	ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。	1959年渡来、北海道、本州の一部に分布。	2m、一年草	畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。	海外では、古くから薬用植物として利用されたが、現在は使用されない。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。	薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。	有毒植物で、家畜にも影響。野外に生育しているものを、山菜のシャク *Anthriscus sylvestris* 等と過って食べないよう注意する。	①要注意、④FAO：7、⑦各県：千葉、⑧河川：0,0,2	世雑Ⅱ、便覧、牧草、有用、（黒川委員）
127	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	アカネ	オオフタバムグラ	*Diodia teres*	海岸砂浜、河川敷	Ⅱ、Ⅳ			◎	×	○	◎	◎	◎	○	◎	－	－	－	－	北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに分布。	1927年に渡来、本州、四国、九州に分布。	0.5m、一年草	砂地がかった道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一部のように生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。	①要注意、③村中：B、⑤対策：H20:4、⑥専門家：河原28、⑦各県：愛知、⑧河川：20,37,42	便覧、写真図鑑、外来生物
128	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	*Cuscuta pentagona*	海浜植物の生育地	IV			寄生	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	（◎）	－	◎	北アメリカ原産、アジア、ヨーロッパに分布。	1970年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	つる性の一年草、寄生植物	畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、海浜、栽培植物上に生育する。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	愛知県では希少種のハマネナシカズラが生育するハマゴウ群落に侵入している。海浜の植物に影響がある場所では駆除が必要である。	①要注意、7⑤対策：H20:<4⑦各県：愛知・京都・広島・愛媛⑧河川：48,89,90	世雑Ⅰ、便覧、外来生物
129	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ヒルガオ	ホシアサガオ	*Ipomoea triloba*		IV、V			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	－	◎	熱帯アメリカ原産。南北アメリカ、アフリカ、アジア、オーストラリアなど、温帯～熱帯に分布し、特に熱帯～亜熱帯に多い。	1945年以降に渡来、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	つる性の一年草	畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。日陰に対する耐性もある。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	分布の中心は九州や東海で、大豆作で甚大な被害が生じている。農耕地から非農耕地への拡散も著しい。作物への混入による品質低下も著しい。	③村中：C、⑧河川：8,33,46	世雑Ⅰ、雑管、便覧、黒川委員、写真図鑑
130	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				クマツヅラ	アレチハナガサ類（アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ（サンジャクバーベナ）、ヒメクマツヅラ（ハマクマツヅラ）	*Verbena* spp.（*V. brasiliensis*, *V. incompta*, *V. bonariensis*, *V. litoralis*）	河川敷の湿地や草原	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	（○）	○	◎	南北アメリカ原産。熱帯～温帯に分布。	1930年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	2m、多年草	市街地の道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地に生育する。	ヤナギハナガサ（サンジャクバーベナ）は観賞用に栽培される。	観賞用に栽培されたものが、河川敷等で分布を拡大していることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	近年増えているのはダキバアレチハナガサだが、アレチハナガサ等として記載されている文献もある。愛知県では、絶滅危惧種が多く生育する河川敷の低湿地にも侵入するので問題とされた。奄美地域では林道沿いで増加。	③村中：C、⑦各県：広島・愛知・宮崎・奄美、⑧河川：アレチハナガサ26,67,74、ヤナギハナガサ23,52,75⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅰ
131	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	ナス	チョウセンアサガオ属	*Datura* spp.（*Brugmansia* spp.）		V			○	×	－	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	熱帯アメリカ産のものが多い。	日本には8種が分布。北海道～九州、琉球に分布。	一年草～低木	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地、海岸等に生育する。	おもに薬用植物として利用される一年草をチョウセンアサガオ節、園芸植物として利用される多年草をキダチチョウセンアサガオ節またはキダチチョウセンアサガオ属 *Brugmansia* に分ける見解もある。	薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。	猛毒の神経毒を全草に含有するため、誤食による人体への影響が問題。少量の混入でも飼料全体を破棄せざるを得なくなる。ゴボウ（根）、オクラ（つぼみ）、モロヘイヤやアシタバ（葉）、ゴマ（種子）と誤って食べないよう注意する。 愛知県では、ヨウシュチョウセンアサガオは被害が問題になるほど生育しておらず、増加もしていないとの記述。	①要注意、④FAO：11、⑦各県：愛知、⑧河川：ﾁｮｳｾﾝｱｻｶﾞｵ：1,2,4、ﾖｳｼｭﾁｮｳｾﾝｱｻｶﾞｵ：3,7,10、ｹﾀﾁｮｳｾﾝｱｻｶﾞｵ0,1,2	世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、牧草、黒川委員、厚生労働省HP、外来生物、園芸事典、JF、Ylist
132	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ゴマノハグサ	ウキアゼナ（バコパ・ロトンディフォリア、カラカワクサ）	*Bacopa rotundifolia*	池沼や湿地	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	－	－	○	○	－	北アメリカ原産。東アジアに分布。	1954年に岡山県で確認後、北海道、本州、四国、九州の一部でに分布。西南暖地のイグサ田の雑草となっている。	長さ0.6m、浮遊性の一年草	池沼、河川、水路、水田などの水湿地に生育する。特に水田（休耕田）で旺盛に繁茂する。日当たりの良いところを好み、土壌の種類を選ばない。種子繁殖する。	観賞用に販売、利用される。屋外での水鉢栽培に適する。水槽では強光下で水中栽培できる。	種子で繁殖し、絶滅危惧種の水草を駆逐し、水田雑草となることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	群馬県ではトリゲモ類やミズマツバなどの絶滅危惧種との競合、駆逐の危険性が高い。アメリカの水田雑草である。	⑦各県：群馬、⑧河川：1,2,5	世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑、水草Ⅲ、角野
133	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				キク	ワタゲハナグルマ、ワタゲツルハナグルマ（アークトセカ・カレンジュラ）	*Arctotheca calendula*, *A. prostrata*	海岸砂浜	IV			◎	×	○	◎*	◎	◎	○	○	－	－	◎	－	南アフリカ原産。地中海沿岸に分布。オーストラリアでは環境雑草。	ワタゲツルハナグルマは1992年渡来し、千葉、神奈川、新潟、宮崎に分布。ワタゲハナグルマは1966年に三重県で確認、関東～九州、四国に分布。	0.3m、一～多年草	砂丘や砂浜、草原、森林に侵入する。日本では市街地の路傍、荒地、埋立地でみられる。畦畔にも植えられるが、畑地に侵入すれば雑草化する。	アークトセカ・カレンジュラの名でグランウンドカバープランツとして利用されているのは、ワタゲツルハナグルマである。	海外で侵略的な外来種とされており、海岸の砂浜や草原で匍匐茎により急速に広がること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	ワタゲツルハナグルマは、ワタゲハナグルマの不稔品種なので種子散布は行わない。	⑦各県：広島はワタゲハナグルマ、⑪その他：勝山委員はワタゲツルハナグルマ。ワタゲツルハナグルマは、ワタゲハナグルマの不稔品種なので種子散布は行わない。	⑦各県：広島、⑪その他：勝山委員	便覧、写真図鑑、帰化植物、勝山委員、JF、GCW、IPSW、IPCW、http://www.cal-ipc.org/ip/management/plant_profiles/Arctotheca_calendula.php
134	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	ネバリノギク	*Aster novae-angliae*	半自然草地	IV			◎	○	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	北アメリカ原産。ヨーロッパ、ニュージーランドに分布。	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	1.5m、多年草	山村などで野生化している。	近年はあまり栽培されない。アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	①要注意、②W100：日本、③村中：C、⑧河川：2,2,4	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員、GCW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
135	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ユウゼンギク	*Aster novi-belgii*	半自然草地	IV			◎	○	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジア、ニュージーランドに分布。	大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。	0.7m、多年草	山野に生える。	アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。	北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。	北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。	⑧河川：2,6,11、⑩その他：藤井委員	便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員
136	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	アメリカセンダングサ	*Bidens frondosa*	湿地	IV、V			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	◎	北アメリカ原産。南ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。	1920年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、一年草	湿った草地、水田、水路、休耕田、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。一般に水辺や湿地に好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	種子の寿命は16年に及ぶこともある。水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。	①要注意、③村中：C、⑤対策：H20:<4、H23:1、②各県：北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・愛媛・奄美、⑧河川：77,117,121	世雑Ⅰ、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物
137	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				キク	栽培キク属	*Chrysanthemum*（*Dendranthema*）cv.	絶滅危惧種を含むキク属の生育地周辺	I			○	◎	－	○	○	○	○	－	○	－	◎	－	キク属（狭義）は約50種類あり、東アジアに多い。代表的な観賞用のイエギク（菊、キク）*C.* × *morifolium*は中国原産とされ、チョウセンノギク*C. zawadskii* ssp. *latilobum* とシマカンギク*C. indicum* の交雑により育成されたとされる。	キク属（狭義）は全国に分布するが、外来種としてはキクタニギク（アワコガネギク）とリュウノウギクに国内帰化の記録がある。	多年草	自生種は種類によって、海岸、島嶼、山地に生育する。イエギクは、比較的耐寒性があり、関東以西では野外で越冬する。	イエギクは、日本の伝統的園芸植物のひとつとして多くの園芸品種が作出され、切り花、鉢物用として広く生産、栽培される。切り花全体の生産額では1／3以上を占め、花卉類の中では営利生産される量が最も多い。 イエギクの一部は料理ギクとして、食用や料理の飾りに用いられる。観賞用の草花類として、キクタニギク（アワコガネギク）、イワインチン、シオギク、サツマノギク、ノジギク、アシズリノジギク、ナカガワノギク、コハマギク、シマカンギク（アブラギク、ハマカンギク）、リュウノウギク、イソギク、イワギク（ホソバチョウセンノギク、モリイワギク）、チョウセンノギクなどが流通、栽培される。	絶滅危惧種を含むキク属の遺伝的撹乱を引き起こすことから、絶滅危惧種で交雑が確認されているオオイワインチンやナカガワノギクをはじめ、野生キク属の生育場所の周辺では利用を控えるか、花粉をつけない品種を利用する等、花粉の散布を防止する。	キク属は交雑し易いことが古くから知られ、19世紀にはイエギク×イソギクのハナイソギク（ウゴシオギク）が確認されている。その他に、イエギク×シマカンギク＝サンインギク、サンインギク×ノジギク＝ニジガハマギク、ナカガワギク×シマカンギク＝ワジキギク、シオギク×ノジギク、サツマノギク×シマカンギク、オオイワインチン×リュウノウギク＝トガクシギク、キイシオギク×シマカンギク＝ヒノミサキギク、アワコガネギク×リュウノウギク＝シロバナアブラギク、イエギク×コハマギク＝ミヤトジマギク、イエギク×シオギク、シオギク×リュウノウギク、キイシオギク×リュウノウギク、シマカンギク×リュウノウギクの雑種が知られている。キク属には、絶滅危惧種として、イワギク(VU)、オオイワインチン(VU)、オオシマノジギク(VU)、キクタニギク（NT）、チシマコハマギク（VU）、チョウセンノギク（EN）、トカラノギク（NT）、ナカガワノギク（NT）、ビレオギク（VU）、ワカサマハマギク（NT）が含まれる。ハナアブにより、お供えのキクの花粉が運ばれていることも指摘されている。	⑥専門家：交雑10	花粉、有用、園芸事典、いがり(2007)、中田(1997)
138	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	アメリカオニアザミ	*Cirsium vulgare*	自然草原	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	○	○	－	○	ヨーロッパ原産。北アメリカ、アフリカ南部、オーストラリアに分布。	1960年代渡来、北海道、本州、四国、琉球に分布。	1.5m、一～二年草	原野や河川敷に生える。肥沃で湿ったところを好む。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	シカによる食害を受けにくく、駆除も困難で増加が危惧。国立公園の北海道利尻島など自然度の高い環境にも定着。住宅地等でもみられ、鋭い棘があることから駆除されている例もある。	①要注意、④FAO：6、⑤対策：H20:<4、H23:1、⑥専門家：草原26、⑦各県：北海道・愛知、⑧河川：5,13,19、⑩海外：ISSG	世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑
139	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ケナシヒメムカシヨモギ（ケナシムカシヨモギ）	*Conyza parva*	海浜	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	－	北アメリカ原産。オーストラリア、ニュージーランドに分布。	1926年に牧野富太郎によって新変種として記載された。北海道、本州、四国、九州、琉球。西日本に多い。	1.5m、越年草	道端、空き地などの乾いた陽地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	海浜環境で群落を形成する場合、コマツヨイグサと同様に砂の安定化により植生遷移を進めてしまうおそれがある。ヒメムカシヨモギに似ている。別学名*Conyza canadensis* var. *pusilla*、*Erigeron canadensis* var. *levis*、*Erigeron pusillus*	⑧河川：11,21,20、⑪その他：藤井委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、Ylist、GCW
140	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ハルシャギク	*Coreopsis tinctoria*	湿地、河原	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	北アメリカ西部原産。ヨーロッパ、アジア、南アフリカ、ニュージーランドに分布。	明治初期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で逸出。	1.2m、一年草	河川敷の草地、路傍、空地に生える。	ハルシャギクは園芸植物として渡来。コレオプシスの通称名で様々な園芸品種が流通、利用されている。特定外来生物に指定されたオオキンケイギクの代わりに利用が増えている可能性がある。	河原の在来植物との競合、駆逐が懸念されている。近縁種のオオキンケイギクは特定外来生物に指定されており、他の近縁種も同様の影響が懸念される。こうした影響を及ぼす場所には、持ち込まない。		③村中：C、⑤対策：H23:2、⑥専門家：河原9、⑦各県：埼玉、⑧河川：24,39,52	便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW
141	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	ヒメジョオン	*Erigeron annuus*	山地や亜高山帯の草原	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	○	－	－	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。	江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。	1.5m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。	若芽は食用にできる。海外では薬用利用もある。国内でも流通がある。	－	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。	①要注意、②W100：日本③村中：A、④FAO：6、⑤対策：H20:5、H23:1、⑥専門家：草原51、⑦各県：青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛、⑧河川：78,119,121	雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅰ、JF、有用
142	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	ペラペラヨメナ(ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルビンスキアヌス、源平小菊、ゲンペイコギク)	*Erigeron karvinskianus*	海岸や川岸の岩場	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	中央アメリカ原産。アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパに分布。	1949年渡来、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.4m、多年草	農耕地、自然林、植林地、河岸、撹乱地、市街地面、湿地に生育する。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩場にも侵入している。	花卉として栽培される。源平小菊、ゲンペイコギク、エリゲロン・カルビンスキアヌスの名前で流通している。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩場に侵入して在来植物への影響が懸念されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	メキシコヒナギクは琉球でつけられた名前。別学名*Vittadinia trnloba*。	④FAO：6、⑦各県：広島、⑩海外：ISSG	便覧、帰化植物、写真図鑑、勝山委員、Ylist、JF、IPSW
143	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	マルバフジバカマ（ユーパトリウム・チョコレート）	*Eupatorium rugosum*	二次林やスギ林の林床	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	－	○	－	北アメリカ原産。アジア、南アフリカに分布。	1896年に渡来。1916年に逸出し、北海道、本州、四国、九州に分布。関東周辺に多い。	1m、多年草	市街地、路傍の石垣の間、日陰、特にスギ林の下に多く生える。	強羅自然公園の植栽品から逸出したと推定されている。ユーパトリウム・チョコレート等の名前で流通している。	耐寒性や耐陰性があり、樹林内へも侵入することから、林床に生育する在来植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	箱根では樹林内に侵入している。Y-Listでは、*Ageratina altissima*。	⑪その他：勝山委員	便覧、写真図鑑、勝山委員、Ylist、園芸事典、GCW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
144	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	コウリンタンポポ（エフデタンポポ）	*Hieracium aurantiacum*	寒冷地や亜高山帯の自然草原	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	（○）	○	－	ヨーロッパ原産。西アジア、北米にかけて広く分布。	明治中期に渡来、戦後定着した。北海道～九州で逸出。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。	0.5m、多年草	原産地では高山に生育する。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育する。乾いたところに多く、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強くない肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。	園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。	海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、貴重な生態系である高山帯でも生育できる。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。北米の一部では強害雑草になっている。	⑦各県：北海道、⑧河川：5,6,6、⑩海外：ISSG	世雑Ⅰ、便覧、帰化植物、環境省、園芸辞典、有用、JF
145	定着初期／限定分布	その他の総合対策外来種				キク	キバナコウリンタンポポ（ノハラタンポポ、キバナノコリンタンポポ）	*Hieracium caespitosum*	寒冷地や亜高山帯の自然草原	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	－	－	－	○	◎	ヨーロッパ原産。北アメリカなどに分布。	1955年に確認され、北海道、岩手、福島、兵庫に分布。北海道では各地に広がっている。	0.5m、多年草	草地、路傍、休耕地に生育する。	JFコードに掲載されているキバナコウリンタンポポが本種かどうか不明である。	近縁種のコウリンタンポポと同様に、風により種子が散布され、高地の草地に侵入し、繁茂している。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	芝生などの種子に混入して拡大。根際からしばしば匍枝を出す。別学名YListは*Pilosella caespitosa*、その他に*H. pratense*、*P. floribunda*	⑦各県：北海道、⑧河川：1,2,3、⑪その他	便覧、写真図鑑、JF、帰化植物、YList
146	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	フランスギク	*Leucanthemum vulgare*	亜高山帯	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	（◎）	○	◎	ヨーロッパ原産。アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がる。	江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。特に北海道に多い。	0.8m、多年草	畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。	園芸植物として渡来、庭園で栽培される。	海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*Chrysanthemum leucanthemum*。マーガレット（モクシュンギク）*Argyranthemum frutescens*と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。芝生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。	③村中：B、⑤対策：H20:6、H23:1、⑥専門家：草原33、⑦各県：北海道、⑧河川：20,53,67	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、Ylist、世雑Ⅰ
147	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				キク	アラゲハンゴンソウ（キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー）	*Rudbeckia hirta* var. *pulcherrima*	湿原、自然草原	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	◎	北アメリカ原産。	1930年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。	0.9m、二年草	造成地、法面、牧場等に生育する。全国の山岳道路沿いにみられ、北海道の原生花園やアポイ岳の麓にも生育する。	園芸植物として渡来。グロリオサ・デージー"Gloriosa Daisy"をはじめ、様々な園芸品種が利用される。	山岳道路沿いに分布を拡大し、鋼路湿原等の生物多様性の保全上重要な地域で駆除の対象になり、草原の在来植物との競合、駆逐が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	オオハンゴンソウの近縁種。アポイ岳の麓で採集、報告された。乗鞍など各地の重要地域で対策が行われている。牧草種子または家畜飼料に混入して分布を拡大したとされる。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：草原27、⑧河川：1,0,6	便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、有用、園芸事典
148	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	オオオナモミ	*Xanthium canadense*	オナモミの生育地や河川敷	I、IV、V			◎	◎	－	◎	◎	◎	○	－	－	◎	－	◎	メキシコ原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカに分布。	1929年渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	2m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地等に生育し、飼料畑で問題になっている。	JFにはオナモミ*Xanthium strumarium*が掲載されている。オナモミは薬用や食用にされることがある。	—	オナモミ（絶滅危惧Ⅱ類（VU））と競合、駆逐、交雑。埼玉ではキタミソウ（絶滅危惧Ⅱ類（VU））の生育地を圧迫。	①要注意、②W100：日本③村中：B、④FAO：7、⑦各県：埼玉・愛知・京都・広島・愛媛、⑧河川：61,97,100	世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑、JF、外来生物、有用
149	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ユリ	シンテッポウユリ（新鉄砲ユリ、タカサゴユリ）	*Lilium* × *formologi*	絶滅危惧種のウケユリなど、交雑のおそれのあるユリ属の生育地周辺	I			○	◎	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	○	－	在来種のテッポウユリ*L. longiflorum*と台湾原産のタカサゴユリ*L. formosanum*の交雑種由来。タカサゴユリと呼ばれているものの中には雑種由来の本種が含まれると考えられる。	本州、四国、九州で逸出。タカサゴユリは1924（大正12）年以降種子が導入され、切り花用に栽培されたが、シンテッポウユリが普及するにつれて廃れた。シンテッポウユリは1939年頃に作出され、1970年代から増えてきた。	1.5m、多年草	路傍、道路の法面、石垣の隙間などに生育する。タカサゴユリは、原産地の台湾では開けた草地から高山まで広く分布する。群馬県ではタカサゴユリが山間部へ分布を広げつつある。	シンテッポウユリ、タカサゴユリともに球根が流通している。	花が美しいため駆除の対象になりにくいが、繁殖力が強く、分布を拡大する傾向にある。近縁種のユリ属の中には、ウケユリ*Lilium alexandrae*などの絶滅危惧種が多く含まれ、これらに対する遺伝的撹乱が危惧される。こうした種類と交雑する可能性のある場所には、持ち込まない。	希少種のウケユリが生育する奄美への侵入が危惧される。JFや園芸事典では学名は*Lilium* × *formologo*。タカサゴユリは種子繁殖が旺盛で、自家受粉で容易に結実して多数の種子がとれる。種子は軽いので遠方に散布されやすい。	⑤対策：H20:<4、⑦各県：広島・愛媛・群馬・奄美、⑧河川：0,1,3 9,24,24	便覧、帰化植物、Ylist、園芸事典、JF、比良松（2012）
150	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				ユリ	ハナニラ（セイヨウアマナ）	*Ipheion uniflorum*	里草地	IV			◎	－	－	○	◎	◎	○	－	－	－	○	－	アルゼンチン原産。、世界各地で観賞用に栽培。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド、北アメリカで逸出。	明治年間に花卉として導入。本州、四国、九州に分布。	0.2m、多年草	旺盛に繁殖するため、植えられたものが各地で逸出して、野生化した。耐寒性がある。	様々な園芸品種が流通し、花壇等に植えられている。	旺盛に繁殖し、河川等で分布を拡大している。土手等に繁茂した場合、在来の春植物（アマナやスミレ類など）との競合が懸念される。こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*Brodiaea uniflora*。増殖は小球を母球からはずして行う。オーストラリアでは環境雑草とされている。	⑧河川：2,3,10	便覧、写真図鑑、藤井委員、Ylist、JF、有用、GCW
151	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				アヤメ	ヒメヒオウギズイセン（ヒメヒオオギズイセン、モントブレチア）	*Crocosmia x crocosmiiflora*	河川敷、海岸や山地の草原、二次林林床	IV			◎	×	－	○	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	南アフリカ原産。フランスで19世紀に、ヒオウギズイセン*C. aurea*と、ヒメトウショウブ*C. pottsii*と交雑によって作られた園芸品種群。アメリカやアジアに分布。	明治中期（1890年頃）に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出。	0.8m、多年草	花壇の付近や廃屋の庭跡など各地で逸出し、海岸の草地などに大群落をなして野生化している。極めて強健で、ときには荒地や山野で半野生状態になっている。耐寒性は強い。	様々な園芸品種が、花壇等で観賞用に栽培される。	海外で環境雑草となり、日本でも野生化し、河川では分布を拡大、海岸の草地にも繁茂している。このような環境に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されることから、こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	別学名*Tritonia* x *crocosmiiflora*。ハワイでは一般的な雑草とされる（GAWW）。オーストラリアやニュージーランドでは環境雑草とされる。ストロンの先に生じた球茎により急速に増殖する。	⑦各県：佐賀、⑧河川：35,68,76	便覧、帰化植物、写真図鑑、Ylist、JF、園芸事典、GAWW、GCW、naturplant3752
152	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	イネ	メリケンカルカヤ	*Andropogon virginicus*	雑木林、草地、河川敷	IV			◎	－	○	◎	◎	◎	○	○	－	（○）	－	－	北アメリカ原産。南アメリカ、東アジア、オーストラリア、太平洋諸島に分布。	1940（昭和15）年頃に入り、本州（関東以西）、四国、九州に分布。	1m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。日当たりが良く、土壌が乾いた所に多い。酸性土壌や岩山にも生育する。	海外では砂防や牧草に利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	—	埼玉では雑木林にも侵入し、センブリ群落を駆逐。愛知県では希少種のウンヌケ絶滅危惧Ⅱ類（VU））やウンウケモドキ（準絶滅危惧（NT））と競合。在来植物が生育困難な酸性土壌にも侵入し、裸地環境を改変する。	①要注意、③村中：C、⑤対策：H23:1、⑥専門家：草原45・湿地10、⑦各県：栃木・埼玉・愛知・鳥取・広島・愛媛、⑧河川：44,81,93、⑩海外：ISSG	世雑Ⅲ、外来生物、有用
153	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	ハルガヤ（スイートバーナルグラス）	*Anthoxanthum odoratum*	里草地や山地草原	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	○	（○）	◎	－	ヨーロッパ～シベリア原産。アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯に分布。オーストラリア、南米等で侵略的。	明治初年に入り、北海道～九州、四国に分布。寒冷地に多い。	0.7m、多年草	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林に生育し、山地にまでみられる。日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばない。耐寒性、耐旱性があり、春先の生育が早い。	牧草として導入されたが、生産性は低くあまり重要視されていない。緑化に利用される。甘みや香りを利用したハーブとして流通、利用されている。	海外で侵略的とされ、日本でも河川等で分布を広げている。耐寒性があり、山地にまでみられることから、自然性の高い草原へ侵入し、在来種と競合し、駆逐することが懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	甘いクマリンの芳香がする。世界的には牧草地の雑草とされる。	③村中：B、④FAO：7、⑥専門家：草原40、⑦各県：青森・広島、⑧河川：28,62,70	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、花粉、牧草、IPSW、JF
154	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	シロガネヨシ（パンパスグラス）	*Cortaderia selloana*		IV			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	－	南米（アルゼンチン）原産。アフリカ南部に分布。ヨーロッパ南部、オーストララシア、合衆国西部で侵略的。	明治時代の中期に渡来。関東～、四国、琉球で逸出。	3m、多年草	海岸砂丘、撹乱地、荒地、低木林、草原、川岸、水路、湿地に生育する。日本では庭園や道路沿いに各地で栽植され、ときに逸出する。東北、北海道での露地越冬は不可能。	園芸品種を含めて流通、利用されている。法面緑化への利用も確認されている。切り花、ドライフラワーにも利用。	海外で侵略的な外来種とされ、風による種子散布で分布を拡大し、様々な環境に侵入して巨大な株を作ること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	公園内で逸出したものが、管理上の問題となっている。増殖は株分けで行う。実生もできるが、花序の大きさ等に変異が出やすい。葉縁が鋭いので皮膚が切れることがあり、生育場所はレクリエーション等に利用できなくなる。	⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、小林委員、園芸事典、JF、IPSW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
155	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	オオクサキビ	*Panicum dichotomiflorum*	湿地や河川敷	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	北アメリカ原産。南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ニュージーランド等、温帯を中心に亜熱帯にまで分布。	1927年に千葉県に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1m、一年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、河川敷、湿地に生育する。日当たりの良い、湿った所を好む。水田周辺、道端などに普通な雑草となっている。	1970年代には転換畑での飼料作物として盛んに試作された。水田転換畑に好適な草種とされる。生草、乾草、サイレージに利用される。	河川敷への侵入が問題となっている。湿った場所を好むことから、希少種等が生育する湿地への侵入も懸念される。こうした場所に侵入しないよう、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。	関西の河川では、攪乱後に大群落を形成して他植物を圧倒する。湿地でも旺盛に生育することから、水田での雑草化が懸念される。	③村中：B、⑦各県：広島⑧河川：63,105,107	世雑Ⅲ、写真図鑑、粗飼料、牧草、藤井委員
156	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種			旧要注意	イネ	キシュウスズメノヒエ（カリマタスズメノヒエ）	*Paspalum distichum* var. *distichum*	湿地や池沼	IV、V			◎	－	－	◎	◎	◎	◎	○	－	◎	－	－	北アメリカ原産。南アメリカ、太平洋諸島、南ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアに分布。	1924年渡来、1945年以来急速に分布を拡大。本州、四国、九州、琉球に分布。	0.5m、多年草	水田、溝、湿地、河川、水路、湖沼、ため池、砂浜に生育する。日当たりの良い所、肥沃な水湿地を好む。	かつて転換畑での飼料作物として試作されたことがある。近年の利用に関する情報は得られなかった。	—	水田の強害雑草。	①要注意、③村中：B、④FAO：12、⑤対策：H23:2、⑥専門家：水生31、⑦各県：愛知・広島・愛媛、⑧河川：43,72,79	世雑Ⅲ、便覧、写真図鑑、帰化植物、牧草、角野
157	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				イネ	セイバンモロコシ（ジョンソングラス）	*Sorghum halepense*	河川敷、草原	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	○	（◎）	◎	－	地中海沿岸のアフリカ原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカに分布。	飼料植物として1943（昭和18）年に渡来。本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布。	2m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、路傍、堤防、灌漑路の周辺に生育する。温暖、湿潤、多雨地帯で日当たりの良い所を好む。	牧草として利用されることがあるが、若い茎葉や生育不良の新鮮葉は青酸を含むことがあり、家畜が中毒を起こすことがあるので注意が必要である。モロコシ*S. bicolor*との交雑が試みられ、耐寒性がある二倍体の多年草が牧草として育成されている。	世界的な強害草とされており、日本でも河川で分布を拡大し、草原に生育する在来種との競合、駆逐が危惧されている。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。	芒のない型をヒメモロコシ（ノギナシセイバンモロコシ）f. *muticum*という。⑦群馬と⑧*はノギナシセイバンモロコシ。世界的に知られた畑の強害雑草。	③村中：B、④FAO：6、⑤対策：H23:1、⑥専門家：草原32、⑦各県：埼玉・広島・群馬*、⑧河川：47,71,74 3,8,26*⑩海外：ISSG	世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、写真図鑑、牧草、JF、有用
158	分布拡大期～まん延期	その他の総合対策外来種				カヤツリグサ	アメリカヤガミスゲ	*Carex scoparia*	湿地	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	－	北アメリカ原産。ニュージーランド、オーストラリアに分布。	1986年に香川県丸亀市で採集。北海道（石狩川下流の湿地、勇払原野等）、本州の一部、香川で確認。	0.6m、多年草	湿地や湿った草地に生える。	本種の利用に関する情報は得られなかった。	—		⑪その他：勝山委員	帰化植物、便覧、勝山委員、GCW
159	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				タデ	ツルドクダミ（カシュウ、何首烏）	*Fallopia multiflora*		II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	台湾原産。合衆国、ハンガリーに分布。	江戸時代（享保5（1720）年）に長崎を経由して江戸で栽培。北海道、本州、四国、九州で逸出。	3m、つる性の木質の多年草	市街地周辺の路傍や生け垣などに生える。	乾燥した塊根は何首烏（かしゅう）と呼ばれ、漢方薬として用いる。	台湾での圧倒的に旺盛な生育状況から、南西諸島に侵入した場合、生態系に多大な悪影響を与えることが危惧される。生物多様性の保全上重要なこうした地域には、持ち込まない。	別学名*Polygonum multiflorum*、*Pleuropterus multiflorus*。	⑪その他：横田委員	便覧、帰化植物、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典、Ylist、GCW
160	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ヤマゴボウ	ジュズサンゴ	*Rivina humilis*	林床	II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	◎	－	（○）	○	○	南アメリカ原産。北アメリカ、アジア、オーストラリア、アフリカ、ヨーロッパ、太平洋諸島に分布。	明治時代後期に移入植物に混入して小笠原の父島に侵入。沖縄へは復帰後観賞用に導入。岡山、宮崎に分布。	1m、常緑の多年草	小笠原では湿り気のあるやや暗い林内で純群落を形成する。沖縄では庭園を中心に雑草化。	観賞用に流通し、栽培される。果期が長いので、温室内で鉢物とするか地植えにする。南米のコロンビアでは染料を採取するために栽培される。	結実までの生長期間が短い上に、果期が長く、鳥により散布されるため分布を拡大しやすい。小笠原では、在来の下層植生、林床の草本、シダ類を駆逐し、樹木の実生発芽も抑制されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	10～12℃で越冬、株元に落ちた果実は自然に良く発芽し、4～5カ月で結実する。鳥により種子が散布される。実生または挿し木でふやす。春に種子をまく と秋から冬に結実するので、一年草としても扱われる。	⑦各県：小笠原	便覧、帰化植物、観葉、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、GCW
161	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ツルムラサキ	ツルムラサキ	*Basella rubra*		II、IV			◎	×	－	－	◎	◎	○	◎	－	－	◎	－	東南アジア原産ともされるが明らかではない。熱帯地域で広く栽培。	明治時代、食用植物として渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。沖縄県の特に大東諸島、宮古島で蔓延している。	4m、つる性の多年草（日本では一年草）	人家の近くで見られる。高温多湿を好む。発芽適温は25℃。十分日の当たる、排水の良いところでは土質をあまり選ばない。性質は強健、病気や害虫はほとんどなく栽培は容易とされる。	日本では、観賞用に鉢植えや垣根に利用される。海外では広く野菜として利用されており、日本でも健康野菜としても販売される。製紙用の糊、染料、薬用にも利用される。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要で、繁茂するおそれのある温暖な地域には、持ち込まない。	花が白色、葉がやや狭長になる系統*B. alba*（*B. alba* "Rubra"）や、葉が大きく基部が心形になる系統*B. cordifolia*が別種とされることもあるが、種を分けるような違いではない。	⑪その他：横田委員	便覧、帰化植物、横田委員、Ylist、有用、園芸事典、JF
162	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ムクロジ	コフウセンカズラ	*Cardiospermum halicacabum* var. *microcarpum*		II、IV			◎	×	－	○	◎	◎	○	◎	－	（○）	○	－	汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ*C. halicacabum*は北アメリカ南部原産。	渡来年代不明だが1961年には記載がある。神奈川、鹿児島、琉球で逸出。	2m以上、つる性の一～多年草	沖縄県（特に大東諸島、宮古諸島）では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所なら土質は特に選ばない。	基本種のフウセンカズラ*C. halicacabum*は流通、販売され、観賞用に栽培される。フウセンカズラは、海外では食用や薬用にされる。	基本種のフウセンカズラは海外で環境雑草等とされている。日本でも大東諸島、宮古諸島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強く、栽培が容易、病気、害虫はほとんどいない。	⑪その他：横田委員	便覧、写真図鑑、JF、有用事典、園芸事典、横田委員、GCW
163	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				アオイ	フヨウ	*Hibiscus mutabilis*	サキシマフヨウの生育地周辺	I			◎	◎	－	○	○	◎	○	○	－	－	○	－	中国中部原産。太平洋諸島、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに分布。	古くから栽培され、本州（関東以西）、四国南部、九州南部、琉球、小笠原諸島で逸出。	4m、落葉低木	日当たりの良いところを好み、海岸に近い谷沿いの林縁に生育する。	観賞用に流通、栽培されており、庭木、公園樹、街路樹、鉢植え等に利用される。	日本固有種のサキシマフヨウとの交雑が確認されていることから、サキシマフヨウの自生地周辺には、持ち込まない。	増殖は挿木または実生で、八重咲き品種はもっぱら挿木による。近縁種のサキシマフヨウ*H. makinoi*は日本固有種で、九州（福江島、甑島、種子島以南）、沖縄に生育し、鹿児島県ＲＤＢ種で分布重要種とされる。サキシマフヨウは屋久島、種子島などの自生地で、フヨウとの間に稔性のある種間雑種ができるため、浸透交雑個体群が形成される。	⑦各県：奄美	便覧、木本Ⅱ、JF、園芸事典、樹の花4、GCW
164	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				トケイソウ	クサトケイソウ（パッシフローラ・フォエティダ、ワイルドパッションフルーツ）	*Passiflora foetida*		II、IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	◎	－	－	○	－	南アメリカ原産。太平洋諸島などの熱帯～亜熱帯に分布。	渡来年代不明。千葉、琉球（沖縄島、大東島）、小笠原（硫黄島）で逸出。特に大東諸島、宮古諸島で蔓延。	つる性の一～多年草	路傍や河原等の撹乱地に生育する。湿った場所を好む。	果実を食用としたり、薬用にするために栽培される。アフリカやマレーシア地域では地被植物としても利用される。日本でも流通、販売されている。	熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島等で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な温暖な地域へは、持ち込まない。	腺毛の量や、和名の由来である臭気の程度に変異が多い。	⑩海外：ISSG、⑪その他：横田委員	便覧、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典
165	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				フトモモ	フトモモ	*Syzygium jambos*	山地の渓流沿い	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	○	－	－	○	－	イラン、インド～インド洋諸島原産。アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。温帯域にも分布を広げつつある。	1935年以前に渡来。琉球（屋久島、種子島）以南で野生化。	10m、常緑高木	自然林、植林地、河川敷、海岸の低木林に生育する。日本では、低地～山地の渓流沿いの水辺に生える。	沖縄には果樹として古い時代に導入されたが、食味が淡白であることからあまり普及しなかった。現在は、観葉植物として流通、栽培される。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも琉球の山地の渓流沿いにまで侵入している。こうした場所は、生物多様性の保全上重要な地域の中ので、希少種等も生育する環境である。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	増殖は通常は実生によるが、挿木によるものもある。	⑩海外：ISSG	便覧、写真図鑑、有用、琉球弧、熱帯花木、IPSW、JF、園芸事典

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
166	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				クマツヅラ	ナガボソウ属	*Stachytarpheta* spp.		IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	（◎）	○	－	南アメリカ原産。南北アフリカ、アジア、オーストラリアなどの熱帯～亜熱帯に分布。熱帯アフリカで侵略的。	・チリメンナガボソウ*S. dichotomaha* 1967年渡来、琉球でに分布。 ・インドナガボソウ（ミズイロナガボソウ）*S. indica*は1967年に琉球に分布。 ・フトボナガボソウ*S. jamaicensis*は戦後、琉球と小笠原に分布。 ・ナガボソウ（ホナガソウ）*S. urticifolia*は1938年以前に琉球、小笠原に分布。	1～2.5m、多年草	路傍、荒地、畑地、牧草地、放牧地、森林、林縁、撹乱地等に生育する。乾いた所から多少湿った所まで土壌適応性が大きい。	国内では、種小名が不明なものが流通している。フトボナガボソウは、ジャワ等で若芽を食用に、中国等では薬用に利用される。	海外で侵略的な外来種とされ、国内でも生物多様性の保全上重要な小笠原諸島や南西諸島で、問題となりつつある。このような地域には、持ち込まない。	対策の対象、海洋島、奄美はナガボソウ（ホナガソウ）。小笠原はチリメンナガボソウとフトボナガボソウ。和名と学名は便覧によったが、有用では、ホナガボソウ*S. jamaicensis*（*S. indica*）、世雑Ⅰではナガボソウ*S. cayennensis*（*S. australis*, *S. dichotomaha*）。種子繁殖が容易で、生育が早く、群生するため、放置すると雑草害が大きい。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島23、⑦各県：小笠原・奄美、⑪その他：藤井委員	世雑Ⅰ、写真図鑑、便覧、有用、Ylist、JF、IPSW
167	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				キツネノマゴ	ヤナギバルイラソウ（ムラサキイセハナビ、ルエリア・ブリトリアナ、リュエリア、メキシコペチュニア）	*Ruellia brittoniana*	湿地や河原	IV			◎	×	－	○	◎	◎	○	○	－	－	○	－	メキシコ原産。合衆国のフロリダ州やハワイで侵略的。	1974年頃、アメリカ軍により非意図的に沖縄本島に持ち込まれた。沖縄、九州、四国の南部で雑草化。	1m、多年草	河原や空地等の礫地や道路の舗装の隙間に生育する。湛水状態でも育つなど適応性幅が広い。日当たりの良い場所で周年開花する。	観賞用の栽培が増え、様々な花の色の園芸品種が流通、栽培される。	海外で侵略的になっている地域があり、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂している。環境への適応性も大きいことから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域には、持ち込まない。	南西諸島の水湿地で繁茂。別学名*R. tweediana*, *R. caerulea*, *R. simplex R. malacosperma*。蒴果は10～20個の扁平な種子を有する。	⑦各県：奄美	便覧、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸図鑑、GCW、USDA
168	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				キク	カッコウアザミ、ムラサキカッコウアザミ（オオカッコウアザミ）、アゲラタム（総称名）	*Ageratum conyzoides*, *A. houstinianum*		IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	－	（◎）	○	－	カッコウアザミは南アメリカ原産、両半球の熱帯から暖帯に広く分布。ムラサキカッコウアザミは熱帯アメリカ原産。	カッコウアザミは、明治初期に渡来し、本州～九州、琉球、小笠原に分布。ムラサキカッコウアザミは1887年頃に渡来し、本州（関東以西）、四国、九州、小笠原に分布。	0.6m、一年草	カッコウアザミは畑地、道端、空地、樹園地、牧草地、休閑地、荒地に生育する。耐寒性はないので温帯では一年草であるが、熱帯では多年草的になり周年開花する。土壌の乾湿や肥沃度、日照条件等に対する適応性が大きく、東アフリカでは3,000mの高地にも生える。ムラサキカッコウアザミも熱帯～亜熱帯地域で同様に雑草となっている。	カッコウアザミは古く花壇や切り花用に栽培される。薬草として利用される。ムラサキカッコウアザミはより花が大きく香りが良いため様々な園芸品種が観賞用に栽培される。アゲラタムの名前で流通、販売されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域には、持ち込まない。	⑦奄美はムラサキカッコウアザミ。⑩ISSG、⑥専門家、⑤対策はカッコウアザミ。冠毛の基部に先が針状の刺があり、動物の毛、人の着物などで瘦果が散布される。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島18、⑦各県：奄美、⑩海外：ISSG	世雑Ⅰ、便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、帰化植物
169	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	タチアワユキセンダングサ（オオバナセンダングサ）	*Bidens pilosa* var. *radiata*		IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	○	○	熱帯アメリカ原産。世界の暖帯～熱帯に広く分布。	江戸時代（弘化年間（1844～48年））に渡来。本州～九州、琉球、小笠原に分布。	1m、一年草	道端、畑地、空地等いたるところに生育する。	近年、健康食品等として宮古ビデンス・ピローサが栽培、販売されている。その他にビデンスの名前で様々な園芸品種が流通、栽培されている。	本種を含むB. pilosaは、世界的にも侵略的になっている種類である。その中でも本種は、南西諸島や小笠原諸島といった生物多様性の保全上重要な地域で繁茂している。このような場所には、持ち込まない。	南西諸島で繁茂しているのはオオバナセンダングサ*B. pilosa* var. *radiata*。その他に、コセンダングサ*B. pilosa* var. *pilo*sa、シロバナセンダングサ*B. pilosa* var. *minor*がある。④FAOと⑤対策はコセンダングサ、⑥専門家ではアワユキセンダングサ、⑦広島はシロバナセンダングサ、⑧河川はシロバナセンダングサとコセンダングサ、⑩ISSGとPIERでは*B. pilosa*。	①要注意、②W100：日本、③村中：B、④FAO：6、⑤対策：H23:1、⑥専門家：海洋島21、⑦各県：愛知・奄美・広島、⑧河川：15,40,52,48,71,83⑩海外：ISSG	雑管、便覧、写真図鑑、外来生物、勝山委員、有用、園芸事典、JF、琉球弧
170	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種			旧要注意	キク	ヒマワリヒヨドリ	*Chromolaena odorata*		IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	（◎）	－	○	熱帯アメリカ原産。アフリカ、熱帯アジア、オーストラリア、太平洋諸島、マスカリン諸島に分布。	1980年に石垣島で確認、沖縄島にも分布。	7m、低木状の草本	畑地、樹園地、牧草地、道端、林縁、低木林、荒地、川岸などに生育する。土壌の種類を選ばず、日当たりの良い所を好む。	海外では観賞用に栽培される。インドでは魚を獲るための毒物に利用する。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	海外の熱帯地域を中心に侵略的な外来植物となっており、日本でも南西諸島や小笠原諸島では大きな脅威になる可能性がある。	南西諸島や小笠原では，大きな脅威になる可能性がある。別学名*Eupatorium odoratum*で、ヒヨドリバナ属に分類されることもある。	①要注意、②W100：IUCN、⑩海外：ISSG	外来生物、藤井委員、写真図鑑、IPSW、世雑Ⅰ
171	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				キク	タワダギク	*Pluchea odorata*		IV			◎	×	－	◎	◎	◎	◎	○	－	－	－	－	北アメリカ～南アメリカ北部原産。ハワイでは深刻な雑草。	沖縄では戦後定着したのち、広範囲に広がり、貴重植物群落にまで侵入している。沖縄周辺の島でも見られるようになった。1968年に和名が名づけられた。奄美地域への侵入も危惧される。	3m、低木	当初、沖縄本島中部の日当たりの良い原野を中心に散在していたが、現在では沖縄本島全域とその周辺の島でも見られるようになった。	海外では、ハーブティーとして利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	ヒイラギギク属の一種。	⑦各県：奄美	便覧、写真図鑑、GAWW
172	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				イネ	シマスズメノヒエ（ダリスグラス）	*Paspalum dilatatum*	里草地	IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	◎	南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、太平洋諸島に分布。	1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。	1.5m、多年草	畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育する。湿った肥沃地を好む。耐干性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。	暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。	奄美諸島や小笠原の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。	③村中：C、⑦各県：広島・奄美、⑧河川：47,78,88、⑨三省：国道	粗飼料、便覧、写真図鑑、世雑Ⅲ、帰化植物
173	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				イネ	タチスズメノヒエ（ペイジーグラス）	*Paspalum urvillei*		IV、V			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	◎	◎	－	南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、アジアなどに分布。	1958年福岡で確認、本州（関東以西）、四国、九州、琉球。	1.5m、多年草	畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育する。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30～35℃。	本種の利用状況に寛する情報は得られなかった。	－	鹿児島、沖縄のサトウキビ畑の強害雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持つ。アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐去が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、椎葉村などの奥地にも広がっている。	③村中：C、⑦各県：広島・宮崎・奄美、⑧河川：19,42,64、⑩海外：ISSG	世雑Ⅲ、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物
174	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				イネ	ムラサキタカオススキ	*Saccharum formosanum* var. *pollinioides*		IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	○	－	－	－	－	台湾原産。	復帰後(1972年)に侵入。1976年に沖縄本島名護市二見の道路法面で採集された。発見された当時は数株だけの小群落であったが、沖縄本島中部以北に普通にみられるようになった。	1.5m、多年草	日当たりの良い原野にみられる。北部山地では林道を介して侵入を広げつつあり、自然植生への影響が懸念される。	台湾では、時に栽培される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。	－	別学名*Erianthus formosanus* var. *pollinioides*。奄美地域への影響も危惧されている。	⑦各県：奄美	便覧、写真図鑑、Ylist、目録、園芸事典
175	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ヤシ	トウ属の一種（カラムス）	*Calamus sp.*	自然林	IV			◎	×	－	◎	◎	◎	○	○	○	－	○	－	トウ属は約375種がインドからマレーシア熱帯地域に分布。台湾には3種が自生。	石垣島で植栽品が広がっており、今後分布域を拡大する可能性が高い。	つる性	腐植質の多い土壌を好む。多湿を好み、とくに幹の細い種類は湿地に自生するため乾燥に弱い。	日本ではカラムスの名前で観葉植物に利用されている。全体に刺が多く鉢栽培には不適。タイワントウ（シマトウ、水藤、スイトウ、スイトウズル）*C. formosanus*、ロタントウ*C. rotang*（*C. roxburgii*）等が販売、栽培される。	西表島や石垣島の自然林に定着し在来植物との競合、駆逐が危惧される。棘があることから、人的な被害も予想され、駆除は困難になると予測される。生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。	未同定なため、トウ属かどうか断定できない。 西表島や石垣島の自然林に定着すると、棘による人的な被害も予想される。	⑪その他：横田委員	有用、横田委員、Ylist、JF、園芸事典

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
176	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種				ショウガ	ハナシュクシャ（シュクシャ、バタフライジンジャー）	*Hedychium coronarium*		II、IV			◎	×	—	—	◎	◎	○	◎	—	—	○	—	インド～マレーシア原産。オーストラリア、南アメリカ、アゾレス諸島、マスカリン諸島、太平洋諸島に分布。アフリカ南部、ハワイ諸島で侵略的。	園芸植物として江戸時代に渡来。沖縄への渡来年は不明。山口、宮崎、琉球、小笠原に分布。	2m、多年草	湿性林、湿地、川岸など、やや湿り気のある場所を好む。自生地では林内に生育する。熱帯では周年、日本では夏から初秋にかけて開花する。	切り花や観賞用に広く栽培される。根茎や花の精油を薬用や香水に利用する。根茎のデンプンを食用にする。多くの種間雑種が作られている。	奄美地域では、国の天然記念物、国定公園特別保護地区である湯湾岳の頂上に植えられて問題とされている。海外で侵略的な外来種とされ、林内でも生育できるため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	めったに結実しないため、主に根茎による栄養繁殖で増える。	⑦各県：奄美、⑩海外：ISSG	写真図鑑、便覧、有用、JF、園芸事典、IPSW
適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）																																
177	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				マタタビ	キウイフルーツ（シナサルナシ）	*Actinidia chinensis* var. *deliciosa*	森林	IV			◎	—	—	◎	◎	◎	◎	○	—	—	◎	—	中国原産で、ニュージーランドで改良された品種が渡来。	北海道、本州、四国の一部で逸出。	8m、つる性の落葉木本	幼木時代には寒害を受けやすいが、樹齢が進めば休眠中の耐寒性は相当に強くなる。遅霜、風害には弱い。土壌条件は乾燥、過湿にも弱い。カンキツ類の栽培適地にほぼ一致する。	1969年に実生苗と導入苗から初結実をみて、近年栽培面積が増加している。様々な品種がある。	河川で増加傾向にあり、鳥により種子が散布でされること等から、雑木林への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所で栽培を中止する場合には、つるが周囲に伸びたり、種子が運ばれることのないよう、適切な処置が望まれる。	耕作放棄地等からつるが伸びだして周囲の植生を圧迫する可能性がある。種子をつけ始めると急速に分布拡大の危険性がある。雌雄異株なので、結実には両性の株が必要。別学名*Actinidia deliciosa*、オニサルナシ（広義）*Actinidia chinensis*	⑥専門家：雑木7、⑦各県：埼玉・愛媛、⑧河川：0,5,10	便覧、本木Ⅰ、有用、JF、Ylist、園芸事典
178	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				バラ	ビワ（ヒワ）	*Eriobotrya japonica*	石灰岩質の岩崖地	IV			◎	×	—	◎	○	◎	◎	○	—	—	◎	—	中国四川省、湖北省原産。北アメリカ、太平洋諸島、レユニオン島に分布。	奈良時代からあり、本州（関東以西）、四国、九州で野生化。	10m、常緑高木	日本では、暖地の石灰岩地に生える。海外では、農耕地、自然林、植林地、河岸、荒地、撹乱地に生育する。	様々な品種が食用に栽培される。薬用にも利用される。海外でも食用や観賞用に栽培される。	ビワが生育する石灰岩地は、特有な植物群落が生育する貴重な環境である。そのため、そうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。	太平洋諸島やレユニオンでは侵略的な外来種となっている。	⑥専門家：岩場13、⑩海外：ISSG	便覧、本木Ⅰ
179	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			旧要注意	マメ	ハリエンジュ（ニセアカシア）	*Robinia pseudoacacia*	河原、海岸林、リンゴ園の周辺	II、IV			◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	—	北アメリカ合原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストッラシア、南アメリカに分布。	明治8年の渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	25m、落葉高木	市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。	庭木、街路樹、砂防林、肥料木、薪炭材等に利用される。 アカシア蜂蜜として単花蜜で高品質な蜂蜜が生産されるため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。 アカシア蜂蜜は国産蜂蜜では最も高額で取引されている。特に長野県、秋田県等のアカシア蜂蜜主産県では、開花状況によって年度変動はあるものの、8割から9割がアカシア蜂蜜であり、代替となる種は現在のところ存在しない。	河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに配慮するほか、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域では利用を避けることが望ましい。 リンゴ炭そ病は高温多湿の梅雨時に、ニセアカシアの花弁が果実に付着することで伝播するとの報告があり、リンゴ園周辺では、一定の距離を置く等の管理が望ましい。 海岸林については、倒伏による危険や、クロマツに悪影響を及ぼさない管理が必要である。	H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。	①要注意、②W100：日本、③村中：A、④FAO：10、⑤対策：H20:<4、H23:4、⑥専門家：河原50、⑦各県：北海道・青森・埼玉・兵庫・愛知・鳥取・愛媛・佐賀、⑧河川：56,89,97、⑨三省：国道、⑩海外：ISSG	便覧、帰化植物、雑管、牧草、農林水産省
180	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				マメ	外来クサフジ類（ビロードクサフジ（ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ）、ナヨクサフジ（スムーズベッチ））	*Vicia villosa* ssp. *vaillosa*、*V. villosa* ssp. *varia*	河川敷や山地草原	IV			◎	—	◎	◎	◎	◎	○	○	—	（○）	◎	—	ビロードクサフジはヨーロッパ～西アジア原産、アフリカ、オーストラリア、南北アメリカに分布。ナヨクサフジはヨーロッパ原産、西アジアに分布。	ビロードクサフジは1941年に野生化が確認、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。ナヨクサフジは1943年に野生化が確認、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、つる性の一年草	道端、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河川敷、草地などに生育する。山地まで生え、熱帯では高地にみられる。	ヘアリーベッチの名で、飼料や緑肥として栽培される。	河原で繁茂することから、カワラヨモギ、メドハギ等の河畔植物と競合し、駆逐するおそれがある。群馬県では、県の絶滅危惧Ⅰ類のレンリソウ自生地に繁茂している。河川に侵入して種子が拡散される場所へは、持ち込まない。	④FAOと⑦各県：群馬で対象となっているのはナヨクサフジ。特定の系統の牛では中毒例がある。在来のクサフジ等、良く似た種類が多い。種子は風、雨、動物により分散。アレロパシー作用がある。	④FAO：6、⑥専門家：河原32、⑦各県：群馬、⑧河川：9,16,27 4,4,2	世雑II、便覧、帰化植物、牧草、群馬県RDB、GCW
181	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				イネ	コヌカグサ（レッドトップ）、クロコヌカグサ	*Agrostis gigantea*、*Agrostis nigra*	河川敷、絶滅危惧種のヌカボ属の生育地周辺	I、IV			◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	—	ヨーロッパ原産、北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。	明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）に分布。	1m、多年草	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壌土に多く、やせた土地にも適応する。	飼料用、特に放牧用として利用されている。種子流通量は多くはないが、国内の種苗会社から販売されている。 牧草としては、生産性や栄養価はあまり高くないものの、やせた土地などの条件不利地や林間放牧等での利用においては、代替となる種はほとんどない。 いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。 国立公園や草原に特有な希少種等が生育する自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防ぐために、結実前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	種子、地下茎および匍匐茎で繁殖する。1穂当たりの生存種子数は約1,000個、休眠期間が短く、湿潤な土壌表面で容易に発芽する。土壌中の種子の寿命は5年以上。アレロパシー作用を持つ。 世界的に温帯～亜寒帯地域にみられる畑地雑草で、コムギ、オオムギ、エンバク、牧草類、果樹類の減収や品質低下をもたらす。日本でもコムギ、バレイショ、テンサイ畑の雑草とされる。在来種が再生するような環境では、コヌカグサを緑化につかうべきではないとされる（ISSG）。コヌカグサの別学名*Agrostis alba*。コヌカグサとクロコヌカグサとの間には中間型もあり、同種として扱う見解もあるため、両種を含む。	③村中：B、⑦各県：青森・栃木・奄美、⑧河川：52,87,93、⑨三省：環・農・林・国道、⑩海外：ISSG	便覧、イネ、世雑III、雑管、牧草、粗飼料、花粉、農林水産省・林野庁、Ylist、GCW、帰化植物、イネ、藤井委員
182	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			旧要注意	イネ	カモガヤ（オーチャードグラス）	*Dactylis glomerata*	山地草原	II、IV			◎	×	—	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。	1861～1864年（文久年間）に渡来。1868年（明治初年）にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1.5m、多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む	飼料用（主に採草用）としてチモシーと並び最も広く利用されており、沖縄を除く全国で栽培されており、特に北海道～東北地方では基幹となる草種。世界的に利用されている牧草種のひとつ。 牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 生産性・永続性・栄養価等の観点から、代替となる牧草種はない。 多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	（独）家畜改良センターの業務（飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布　家畜改良センター法§11①三）として、増殖を行っている。 トウモロコシ、モロコシ、コムギ、果樹の雑草。	①要注意、②W100：日本③村中：A、④FAO：10、⑥専門家：草森・埼玉・愛知・兵庫・奄美、⑧河川：57,104,105、⑨三省：環・農・林・国都・国道	便覧、帰化植物、写真図鑑、世雑III、雑管、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
183	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			旧要注意	イネ	オニウシノケグサ（トールフェスク、ケンタッキー31フェスク）	*Festuca arundinacea*	里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草原	II、IV			◎	－	－	◎	◎	◎	○	◎	○	（○）	◎	－	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア原産。アフリカ南部、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、体制四諸島の亜寒帯～暖帯に分布。	1905（明治38）年に導入、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。亜高山帯の自然公園にも侵入。	2m、多年草	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育する。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。	チモシーやオーチャードグラスと比較すると栄養価は劣るが、環境変異に強いため飼料用（主に放牧用）や緑化用として全国で利用されている。特に、寒地型の永年生の牧草としては、関東以西の温暖地で利用可能な種が非常に少なく、代替品種はない。世界的に利用されている牧草種のひとつ。 牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 「生態系環境配慮型トールフェスク」として、農研機構及び雪印種苗が共同開発した「MST－1（無花粉トールフェスク）」や生産性の低い「ポンサイ3000（矮性トールフェスク）」という品種が開発されているが、種子の価格が高いことや生産性が低いこと等から、緑化用としての利用に限定されており、代替は非常に困難。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。 奄美地域では、要注意外来生物に選定される等で利用されなくなった。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	（独）家畜改良センターの業務（飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布　家畜改良センター法§11①三）として、増殖を行っている。 オーストラリア、ニュージーランド、合衆国の一部地域で侵略的となっている。	①要注意、②W100：日本③村中：A、④FAO：8、⑥専門家：草原43、⑦各県：青森・栃木・埼玉・愛知・広島・佐賀・奄美、⑧河川：61,99,112、⑨三省：環・農・林・国道	世雑III、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁
184	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			旧要注意	イネ	ドクムギ属（イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス等）	*Lolium* spp.	河原や自然草原、ボウムギは海岸砂地	IV			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	ヨーロッパ原産。世界の温帯～暖帯に分布。	明治時代に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	1m、一年～多年草	畑地、樹園地、路傍、空地、荒地に生育する。日当たりの良い、温暖な肥沃地を好む。	飼料用（主に採草用）として全国で利用されており、関東以西の単年生牧草としては、（おそらく）最も利用されている草種。北海道・沖縄を除く地域では、基幹となる草種。 牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 比較的耐湿性を有することから水田裏作での栽培に適していることや、さらに生産性・栄養価・嗜好性等非常に優れており、代替となる種はない。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、河川敷への侵入が問題となっている。国立公園や、特有な希少種等が生育している河川敷周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	（独）家畜改良センターの業務（飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布　家畜改良センター法§11①三）として、増殖を行っている。 ネズミムギ（イタリアンライグラス）*L. multiflorum*、やホソムギ（ペレニアルライグラス）*L. perenne*。これらの雑種であるハイブリッドライグラスム x *hybridum* 等が利用される。家畜に食べられて糞に混入して運ばれることが多い。アレロパシー作用がある。ボウムギム *rigidium* は海岸砂地に群生する。	①要注意、③村中：B、④FAO：8、⑤対策：H23:2、⑥専門家：河原37、⑦各県：青森・栃木・埼玉・愛知・兵庫・広島・奄美、⑧河川：ホソムギ42,66,82、ネズミホソムギ56,100,108、ネズミムギ8,19,22、エダウチネズミムギ0,0,3、ボウムギ3,6,5⑨三省：環・農・国道、⑪藤井委員	世雑III、雑管、花粉、粗飼料、農林水産省・林野庁、藤井委員、写真図鑑
185	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種			旧要注意	イネ	オオアワガエリ（チモシー）	*Phleum pratense*	亜高山帯や山地の草原	II、IV			◎	○	－	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	－	ヨーロッパ～シベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布。	明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。	1m、多年草	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。	牧草として優れた性質を持ち、栽培品種も多い。 飼料用（主に採草用）としてオーチャードと並び最も広く利用（沖縄県を除く（ほぼ全国）されており、北海道～東北地方では基幹となる草種で、北海道で利用される牧草のうち最も面積が広い。世界的に利用されている牧草種のひとつ。 牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 多くの種苗会社から種子が販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。 多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 生産性・永続性・栄養価等の観点から、代替となる牧草種はない。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	自然草原への侵入が問題となっている。国立公園や、特有な希少種等が生育している自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	（独）家畜改良センターの業務（飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布　家畜改良センター法§11①三）として、増殖を行っている。 ミヤマアワガエリとの交配可能。	①要注意、③村中：B、④FAO：9、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：草原38、⑦各県：愛知、⑧河川：24,39,34、⑨三省：国道	世雑III、農林水産省・林野庁
186	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				イネ	モウソウチクなどの竹類	*Phyllostachys edulis*、*Phyllostachys* spp.	二次林、自然林	II、IV、V			◎	×	◎	－	◎	◎	◎	◎	－	◎	◎	－	モウソウチクは中国原産。マダケ*P. reticulata*やは中国原産説もあったが日本原産らしい。ハチク*P. nigra* var. *henonis*は中国原産説と日本原産説がある。	モウソウチクは江戸時代に渡来。北海道南部から九州で栽培、逸出。マダケは本州、四国、九州、沖縄で栽培。ハチクは北海道中部以南から沖縄で栽培。	約20m、木本	植林地、里山の二次林や自然林にも侵入し、林床の環境も変えてしまう。	筍としての食用、竹材、物を包むのに皮が利用される。	既にある竹林については、放棄することなく適切に利用、管理されることが望ましい。適切な管理が持続できない場所へは、新たに持ち込まない。	広島県では、竹類のうちマダケとハチクが特に二次林等に侵入、拡大し、環境を改変することで問題になっている。	③村中：B、④FAO：7、⑤対策：H23:1、⑥専門家：雑木47、⑦各県：埼玉・愛知・広島	便覧、樹の花5
187	分布拡大期～まん延期	産業管理外来種				イネ	ナギナタガヤ（ネズミノシッポ）	*Vulpia myuros*	海岸砂地、草原	IV			◎	×	○	◎	◎	◎	○	○	－	○	◎	－	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布。オーストラリアでは侵略的。	明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。	0.6m、一年草	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。	密な群落を作って他の雑草を抑えるため、近年は果樹園や道端の雑草防除法の一つとして、改良品種を含むナギナタガヤが、流通、販売され、栽培されている。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。大量に利用されるようになることで、生物多様性の保全上重要な地域にも侵入するおそれがある。果樹園等で利用する際には、利用しない種子を放置せずに適切に処分する。	これまでナギナタガヤはそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。	③村中：B、⑦各県：奄美、⑧河川：52,91,98	世雑III、勝山委員、便覧、写真図鑑、IPSW

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	形態	生育環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散										
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入									
188	小笠原・南西諸島	産業管理外来種				イネ	ギネアキビ（ギニアグラス、ギニアキビ、イヌキビ）	*Panicum maximum*		II、IV			◎	×	−	◎	◎	◎	○	◎	−	(◎)	◎	◎	熱帯の東アフリカ原産。18世紀から20世紀初頭までに熱帯アジアから太洋州、豪州に導入。現在は、アフリカ、南ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカの熱帯、亜熱帯の各地に広く分布。南アメリカの熱帯地域と太平洋地域のガラパゴス諸島やハワイ諸島で侵略的。	1971年渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球（奄美大島、沖縄島）に分布。	2m、多年草（短年性の品種もある）	本来は熱帯アフリカの肥沃な土壌で自生し、最適降雨条件は1,000〜1,300mmとされていたが、各地に導入されるのに伴い、遺伝的に変異し、多くの生態型がある。耐旱性、耐湿性、耐踏圧性、耐暑性の高い様々な品種が含まれる。路傍、荒地、畑地、牧草地、草地、岩石地、川岸、撹乱地に生育する。日当たりの良い湿った所を好み、乾いた土壌にも適応する。	暖地型（永年性）牧草として、関東〜沖縄地方で飼料利用されている牧草種。 センチュウ抵抗性があることから、緑肥としてもハウス等での利用が行われている。 牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。 生産性や栄養価が高いことから、飼料的価値は非常に高く、多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 品種開発も公的機関及び民間種苗で行われている。 特に沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。	海外で侵略的な外来生物とされ、奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	⑩ISSGでは*Urochloa maxima*。その他別学名多数あり。 （独）家畜改良センターの業務（飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布　家畜改良センター法§11①三）として、増殖を行っている。 種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。種子の生産量は9000個以上／株で、休眠性を持つ。	⑦各県：奄美、⑧河川：0,2,1、⑩海外：ISSG、⑪その他：藤井委員	便覧、写真図鑑、農林水産省、牧草、帰化植物、世雑III、IPSW
189	小笠原・南西諸島	産業管理外来種				イネ	アメリカスズメノヒエ（バヒアグラス、オニスズメノヒエ）	*Paspalum notatum*		II、IV			◎	−	−	◎	◎	◎	○	◎	−	(◎)	◎	−	南アメリカ原産。北アメリカ、アフリカ、南アジア、オーストラリアに分布。	1969年渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布。	0.8m、多年草	畑地、樹園地、牧草地、水田、路傍に生育する。日当たり良い湿ったところに生育する。土壌の種類を選ばない。耐干性がある。	飼料用（主に放牧用）として利用されている暖地型の永年生牧草で、関東以西で利用されている。九州地域での利用が盛ん。 生産性の高い永年生の牧草としては、耐暑性をもちかつ越冬可能（琉球地域を除く地域）な種は、他にシマスズメノヒエ（ダリスグラス）が知られている程度であり、代替種はない。 国内で開発された品種もあり、種子も流通している。 いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。	奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島の固有種や希少種の生息・生育地の周辺などでは可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈を適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。	種子と根茎で繁殖する。種子形成量が多く、風、雨、動物、人間で伝播する。アレロパシー作用がある。熱帯〜亜熱帯で牧草地から逃げ出して雑草となっている。 雑草害はイネ、野菜、芝草、柑橘類、材木に発現する。海外では危険性の高い植物との評価がある。ブラジルでは深刻な雑草、キューバでは重要な雑草、アルゼンチンやハワイでは一般的な雑草等となっている。	③村中：C、⑦各県：広島・奄美、⑧河川：13,41,58、⑨三省：国道	世雑III、便覧、帰化植物、農林水産省・林野庁、GAWW、GCW、PIER
190	小笠原・南西諸島	産業管理外来種				イネ	ナピアグラス（ネピアグラス、エレファントグラス、ペルーグラス）	*Pennisetum purpureum*		II、IV			◎	○	−	◎	◎	◎	○	◎	−	(◎)	◎	−	熱帯アフリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、東南アジア等、世界の熱帯〜亜熱帯で栽培され、暖帯の一部にまで分布。アフリカ南部、合衆国南東部、ガラパゴス諸島で侵略的。	昭和初期に奄美大島に導入され、1955〜1965年にかけて九州、沖縄で広く栽培された。千葉県、東京都、鹿児島（奄美諸島）、琉球に分布。関東以北では、高さ2〜4mまでに生育できるが、出穂することはなく、冬も越せない。	2〜5m、多年草	畑地、水田、水路、畦畔、溝、路傍、森林、草地、荒地、川岸、海岸の砂浜等、幅広い環境に生育する。年間降水量1,000mm以上、日当たりの良い所、湿った土壌を好み、土壌の種類を選ばない。耐旱性が強く、耐冠水性や耐霜性はやや劣る。	暖地型（永年性）牧草として九州〜沖縄地方の無霜地帯で利用があり、世界的に利用されている。主に青刈り、サイレージとして利用されるが、放牧利用されることもある。 栄養価及び生産性が高いため、飼料的価値が高く、鹿児島県（奄美）及び沖縄県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。 九州〜沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。 育種はおもにアフリカ、アメリカ等で行われている。種内の形態的変異が大きい。近縁のトウジンビエ（パールミレット）*P. typhoides* の雑種は、不稔であるが生育がよく、飼料に適している。 土壌侵食防止や防風のために植え付け、稈で屋根をふいたり、囲いをつくったりする。	海外で侵略的となっている地域があり、南西諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。南西諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。	奄美地域には鹿児島県RDB準危惧のシマチカラシバ*P. sordidum* が生育。種子と根茎により繁殖する。種子形成量が少なく、ほとんど不稔であるため、主に根茎による繁殖が行われる。繁殖は3〜4根節ずつ切った茎を挿すか、株分けによる。茎の断片は1節あると再生し、伝播の重要な手段となる。熱帯〜亜熱帯の牧草地から逸出して雑草化している。イネ病害虫の奇主となることも知られている。	⑦各県：奄美、⑪その他：藤井委員	写真図鑑、農林水産省、便覧、世雑III、有用、粗飼料、IPSW

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト　掲載種の付加情報（根拠情報）　＜植物＞

【国内由来の外来種】

※対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No.	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件※		特定外来/旧要注意	科名	和名（別名、流通名）	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目													分布	形態	生育環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
											定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散				重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散									
			被害の深刻度	実効性・実行可能性							生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済産業	利用	付着混入								
定着を予防する外来種（定着予防外来種）																															
	侵入予防外来種																														
191	国内由来の外来種	侵入予防外来種				イワヅタ	変異種のイチイヅタ（キラー海藻）	*Caulerpa taxifolia*		IV	○	○	(◎)	－	○	◎	(◎)	○	○	○	－	(◎)	－	－	イチイヅタは南西諸島に分布しているが、世界的に問題となっているのは地中海の変異型で、変異型の日本での定着は確認されていない。	2.8m、海藻	熱帯～亜熱帯海域に分布するものは20℃以下では生存できないが、地中海に生育するものは10℃以下でも死滅しない。	本種の流通、販売は確認されなかったが、水族館で展示されていたこともあり、観賞用の海藻として熱帯魚店などで販売される可能性がある。	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも利用されている可能性がある。栽培に用いた水を含め、自然海域に持ち込まない。	緑藻植物門	②W100：IUCN・日本、⑦各県：佐賀、⑩海外：ISSG、⑪その他：岩崎委員	H16第1回G会合植物資料、海洋産業研究会（2003）
総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）																															
	緊急対策外来種																														
192	国内由来の外来種	緊急対策外来種	①②③	⑤		トウダイグサ	小笠原諸島・奄美諸島などのアカギ	*Bischofia javanica*	小笠原諸島や奄美諸島	II、IV			◎	×	○	◎	◎	◎	◎	◎	－	○	◎	－	琉球（沖縄諸島、八重山列島）に分布。	25m、半常緑性高木	森林に広くみられるが、野生化どうか不明な所も多い。	庭木、街路・防風樹。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	首里金城の大アカギは文化財保護法で天然記念物に指定。	②W100：日本、③村中：A、⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島34、⑦各県：小笠原・奄美	木本Ⅰ、樹木、JF
	重点対策外来種																														
193	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			マツ	小笠原諸島などのリュウキュウマツ（オキナワマツ）	*Pinus luchuensis*	小笠原諸島	II、IV			◎	×	○	◎	◎	◎	○	◎	-	-	◎	-	吐噶喇列島以南の琉球に分布。	25m、常緑高木	暖地の森林に生える。	庭木、防風・防潮樹に利用される。市販品が流通、販売されている。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、小笠原諸島など自然分布域でない場所では可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	母島・父島の松枯れの原因のマツノマダラカミキリがグリーアノールに食害されて、再繁茂。落葉層による他種の発芽抑制。	⑤対策：H20:<4、⑥専門家：海洋島25、⑦各県：小笠原	木本Ⅰ、樹木、JF
194	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			クワ	小笠原諸島などのガジュマル	*Ficus microcarpa*	小笠原諸島の父島	II、IV			◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	屋久島以南・琉球、台湾・中国大陸南部・東南アジア・インド・ニューギニア・オーストラリアに分布。	20m、常緑高木	海岸近くに生える。	南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられる。市販品が流通、販売されており、観葉植物としても利用される。	温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	果実は食べられる。ISSGの表題は*Ficus microcarpus*	⑥専門家：海洋島6、⑦各県：小笠原、⑩海外：ISSG	木本Ⅰ、JF、観葉植物
195	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			クワ	小笠原諸島などのシマグワ	*Morus australis*	小笠原諸島のオガサワラグワの生育地	I、II、IV			◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	九州南部、南西諸島から中国大陸、インド東部に分布。	10m、落葉高木	低山地の林内に生える。	養蚕用に栽培される。市販品が流通、販売されている。 緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されている。	クワ属の在来種の生育場所の周辺では、可能な限り利用を控えるか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。	シマグワ*M.austaralis*とヤマグワ*M. bombycis*を分ける見解と、ヤマグワ（シマグワ）*M. austaralis*として同種とする見解がある。	⑥専門家：海洋島24・交雑24、⑦各県：小笠原	木本Ⅰ、有用、園芸事典、樹木、JF
196	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			ケシ	白山などの高山帯のコマクサ	*Dicentra peregrina*	白山、北海道の樽前山・羊蹄山・前天塩岳、白山、日光白根山	I、II、IV			◎	◎	-	◎	◎	◎	○	◎	-	-	◎	-	北海道・本州中北部、千島・カムチャッカ・樺太・シベリア東部に分布。	0.1m、多年草	高山の砂礫地に点々と生える。	市販品が流通、販売されている。	産地が異なるものや不明なものは、遺伝的攪乱を引き起こすので持ち込まない。高山帯は、自然公園法等により植物の植栽が規制されている。	自然公園法の指定植物。	⑥専門家：高山22、⑪その他：白山で駆除	草本Ⅱ、JF
197	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			トウダイグサ	屋久島などのアブラギリ（ドクエ）	*Vernicia cordata*	屋久島	I、II、IV			◎	◎	-	○	◎	◎	◎	◎	○	-	◎	-	本州（中部地方以西）、四国、中国、九州、朝鮮半島、中国、台湾に分布。	15m、落葉高木	山地に生えるほか、栽培される。強健で生長は比較的早く、湿潤な土壌、日当たりを好む。剪定、移植に耐える。	種子からとる桐油は有毒だが、乾性油としてすぐれ、印刷用インクやペンキ、油紙などに利用。昔は和傘に塗った。樹皮のタンニンは染色や皮なめしに利用。材は下駄や器具に利用。	強健で生長は比較的早く、シカの食害を受けないことから急激に増加し、在来種との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域へは、持ち込まない。	別学名*Aleurites cordata*。中国の広東省と福建省が原産で日本には約300年前に渡来したとされたが、中国には自生しないことから、現在は日本が原産と考えられている。種子が原因の食中毒の事例がある。増殖は実生による。	⑪その他：日本生態学会	便覧、千葉県植物誌、Ylist、目録、樹花4、木本Ⅰ、有用、園芸事典
198	国内由来の外来種	重点対策外来種	①②③			オオバコ	高山帯のオオバコ	*Plantago asiatica*	ハクサンオオバコが生育する白山や立山	I、II、IV			◎	◎	-	◎	◎	○	○	◎	○	-	○	◎	千島・樺太、北海道～琉球、朝鮮、中国に分布。	0.5m、多年草	日当たりの良い道端や荒地に普通。	市販品が流通、販売されている。葉に斑が入る園芸品種が栽培される。	高山植物であるハクサンオオバコとの交雑が確認され、遺伝的攪乱が危惧されている。こうした問題は野生品の非意図的な持ち込みによると思われるが、栽培品についてもこうした問題を引き起こさないよう、オオバコ属の希少種の生育場所の周辺には持ち込まない。		⑤対策：H20:14	草本Ⅲ、雑管、花粉、JF、園芸事典
	その他の総合対策外来種																														
199	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種				タデ	山地のギシギシ	*Rumex japonicus*	北海道、早池峰、立山など、希少種のギシギシ属の生育場所	I、II、IV			◎	◎	-	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	日本全土、朝鮮・中国・千島・樺太に分布。	1m、多年草	原野や道端の湿地に多い。	市販品が流通、販売されている。薬用や染色に利用される。	ギシギシ属の植物は雑種を作りやすく、希少種の遺伝的攪乱が懸念される。ギシギシ属の生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止するよう配慮する。	日本では最近報告はないが、シュウ酸を含むので中毒を起こす。	⑤対策：H20:<4	草本Ⅱ、雑管、花粉、牧草、JF、園芸事典、世雑Ⅱ
200	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種				ヤシ	九州北部以北の森林内などのシュロ類	*Trachycarpus* spp.	温暖な地域の森林	I、IV			◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	○	-	-	◎	-	シュロ*T. fortunei*は南九州の原産で中国にも分布。トウジュロ*T. wagnerianus*は中国原産。本州以南に分布。	7m、常緑高木	市街地を中心に野生状態のものがみられる。	市販品が流通、販売されている。	二次林にも自然林にも侵入するので、特に温暖な地域では、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。	シュロとトウジュロの識別はやや困難。 ⑩ISSGはシュロ*T. fortunei*	⑥専門家：雑木38・極相25、⑦各県：埼玉、⑩海外：ISSG	便覧、木本Ⅱ、JF

＜種の抽出に利用した既存の文献等＞

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

①特定外来生物(12種）と要注意外来生物（84種）

②IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に①に含まれている）。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種（既に全種が①に含まれている）。日本生態学会（2002）外来種ハンドブック．地人書館.

③村中ら（2005）掲載の108種（※河川重視の評価）。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討．保全生態学研究10：19-33.

④FAO方式による雑草性リスク評価の結果、6点以上の特に注意すべき外来植物（＊は今後導入される可能性のある外来植物）

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会（2008）外来生物のリスク管理と有効利用．養賢堂.

⑤地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種（数字は対策事例数）

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書.

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書.

⑥専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた）種（数字は回答者数）

ハビタットの種類：海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

⑦都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010，http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2：本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種（カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載）

青森県（2006）青森県外来種対策学術調査報告書－青森県外来種リスト－．http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種）：本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一（2008）栃木県の自然の変貌，自然の保全はこれでよいのか（自刊）.

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和（2009）外来植物の脅威－群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法－．上毛新聞社事業局出版部.

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課（2005）埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそれのある侵入的外来植物について．改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299-306pp.

危険度5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど

危険度4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ：河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書.　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課（2012）愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012（STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷）

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（以下「条例」という。）において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種（京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種）5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危惧種（京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種）のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応，兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）(2010)

Z警戒種（生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種）

鳥取県生物学会（2007）鳥取県の外来性動植物のリスト(2007)．山陰自然史研究3:37-45.

本県への影響大とされる10種

岡山県，外来食虫植物の除去（岡山県自然保護センター）http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点．比婆科学224:1-18.

ランクA：広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそれのある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/joureikiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会（2011）改訂・宮崎県版レッドーデータブック宮崎県の保護上重要な野生生物．宮崎県環境森林部自然環境課．植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生（2010）小笠原諸島に侵入している外来植物の現状．植調44(1)5-13．侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所（2010）平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書.

⑧多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種（表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した）

河川水辺の国勢調査1・2・3巡目調査結果総括検討（河川版）（生物調査編）平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.htm

a.多くの河川で確認されている

1巡目から3巡目までのいずれかで、出現率（出現河川数／対象河川数）が50%を超えるもの（史前帰化植物を除く）。

b.確認される河川数が急激に増えている

1巡目から3巡目までに確認河川が4倍以上、または2巡目から3巡目までに確認河川数が2倍以上になった種

（各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1巡目や2巡目の出現河川数が0の種類も含む、3巡目の確認河川数が10以上を対象）

1巡目：H2～H7に78河川で実施、2巡目：H8～H12に119河川で実施、3巡目：H13～H17に121河川で実施

⑨緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種（括弧内は調査実施主体の略）

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局（2006）平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書.

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向（案）の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、（外国産）在来緑化植物とされている。

⑩海外の評価

ISSG掲載の在来種以外：Lists of Invasive Alien Species (IAS)，http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

⑪その他

検討委員からの情報提供

【主な参考文献と略称】

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp.（IPCW）
Global Compendium of Weeds、http://www.hear.org/gcw/index.html（GCW）
橋本梧郎（1996）ブラジル産薬用植物事典．アボック社．（ブラジル）
林弥栄（1985）山渓カラー名鑑日本の樹木．山と渓谷社．（樹木）
Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.（GAWW）
堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇（1989）世界有用植物辞典．平凡社．（有用）
星野卓二・正木智美・西本眞理子（2011）日本カヤツリグサ科植物図譜．平凡社．（カヤツリグサ）
岩槻邦男（1992）日本の野生植物シダ．平凡社．（シダ）
岩月善之助（2001）日本の野生植物コケ．平凡社．（コケ）
JFコード（日本花き取り引きコード）センター　http://www.jfcode.jp/TOP.aspx（JF）
角野康郎（2014）ネイチャーガイド日本の水草．文一総合出版．（角野）
草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎（1994）雑草管理ハンドブック．朝倉書店．（雑管）
邑田仁・米倉浩司（2012）日本維管束植物目録．北隆館．（目録）
長田武正（1989）増補日本イネ科植物図鑑．平凡社．（イネ）
大野照好・片野田逸朗（1999）琉球弧・野山の花．南方新書．（琉球弧）
尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也（1991）山渓カラー名鑑観葉植物．山と渓谷社．（観葉）
Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. http://www.hear.org/pier/index.html（PIER）
斎藤洋三・井出武・村山貢司(2006) 新版・花粉症の科学．化学同人．（花粉）
坂崎信之（1998）日本で育つ　熱帯花木植栽事典．アボック社．（熱帯花木）
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（1982）日本の野生植物草本Ⅰ単子葉類．平凡社．（草本Ⅰ）
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ離弁花類．平凡社．（草本Ⅱ）
佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ合弁花類．平凡社．（草本Ⅲ）
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅰ．平凡社．（木本Ⅰ）
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅱ．平凡社．（木本Ⅱ）
清水建美（2003）日本の帰化植物．平凡社．（帰化植物）
清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七（2005）牧草・毒草・雑草図鑑．全国農村教育協会．（牧草）
清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑．全国農村教育協会．（写真図鑑）
自然環境研究センター（2008）日本の外来生物．平凡社．（外来生物）
鈴木基夫・横井政人（1998）山渓カラー名鑑園芸植物．山と渓谷社．（園芸）
太刀掛優・中村慎吾（2007）改訂増補帰化植物便覧．比婆科学教育振興会．（便覧）
高橋秀男・勝山輝男（2000）山渓ハンディ図鑑3　樹に咲く花、離弁花①．山と渓谷社．（樹の花3）
高橋秀男・勝山輝男（2000）山渓ハンディ図鑑4　樹に咲く花、離弁花②．山と渓谷社．（樹の花4）
高橋秀男・勝山輝男（2000）山渓ハンディ図鑑5　樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物．山と渓谷社．（樹の花5）
高野信雄（1989）粗飼料・草地ハンドブック．養賢堂．（粗飼料）
竹松哲夫・一前宣正（1987）世界の雑草Ⅰ―合弁花類―．全国農村教育協会．（世雑Ⅰ）
竹松哲夫・一前宣正（1993）世界の雑草Ⅱ―離弁花類―．全国農村教育協会．（世雑Ⅱ）
竹松哲夫・一前宣正（1993）世界の雑草Ⅱ―離弁花類―．全国農村教育協会．（世雑Ⅱ）
塚本洋太郎（1994）園芸植物大事典全3巻．小学館．
豊田武司（2003）小笠原植物図譜（増補改訂版）．アボック社．（小笠原）
植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹（2010）日本帰化植物写真図鑑第2巻．全国農村教育協会．（写真図鑑）
United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. http://plants.usda.gov/java/（USDA）
山崎美津夫・山田洋（1994）世界の水草Ⅰ．ハロウ出版社．（水草Ⅰ）
山崎美津夫・山田洋（1994）世界の水草Ⅱ．ハロウ出版社．（水草Ⅱ）
山崎美津夫・山田洋（1994）世界の水草Ⅲ．ハロウ出版社．（水草Ⅲ）
米倉浩司・梶田忠（2003-）BG Plants 和名―学名インデックス」（YList）http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html
Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World、A Reference Guide to Environmental Weeds、CABI Publishing.（IPSW）